

時事経済情報

No. 96

2023年4月24日

福井県立大学客員教授

丹羽連絡事務所チーフエコノミスト

中島精也

目次

- I 米国経済
- II 欧州経済
- III 中国経済
- IV 日本経済
- V マーケット動向



I 米_米国_国經_經濟_濟

1. 米GDP10～12月期は在庫投資増が大きく寄与

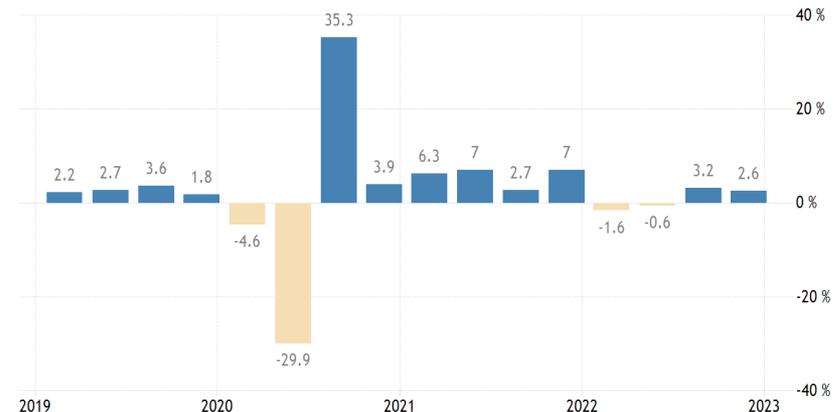
①10～12月期の実質GDP(3次推計)前期比は+2.6%(前期比年率、右上図)と2四半期連続のプラス。前年比は+0.9%(右下図)。

②10～12月期の内需の寄与度は+2.14%、外需の寄与度は+0.42%と内需主導の成長となっているが、在庫投資の寄与度が+1.47%と成長率の半分以上を占める。

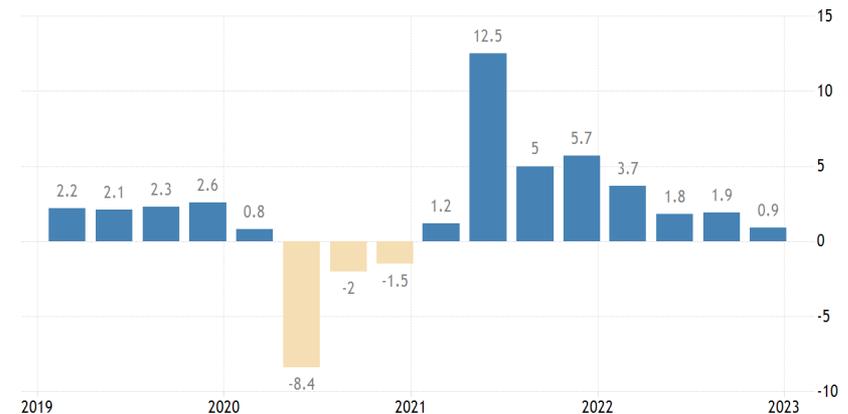
③個人消費の伸びは+1.0%(モノ▲0.1%、サービス+1.6%)で寄与度は+0.70%。設備投資は+4.0%で寄与度は+0.52%。住宅投資の伸びは▲25.1%、在庫投資の寄与度は+1.47%、政府支出の伸びは+3.8%(連邦+5.8%、地方+2.6%)で寄与度は+0.65%

④輸出の伸びは▲3.7%、輸入は▲5.5%。

⑤名目GDPの伸びは+6.6%、GDP物価指数は+3.9%。



TRADINGECONOMICS.COM | U.S. BUREAU OF ECONOMIC ANALYSIS



TRADINGECONOMICS.COM | U.S. BUREAU OF ECONOMIC ANALYSIS

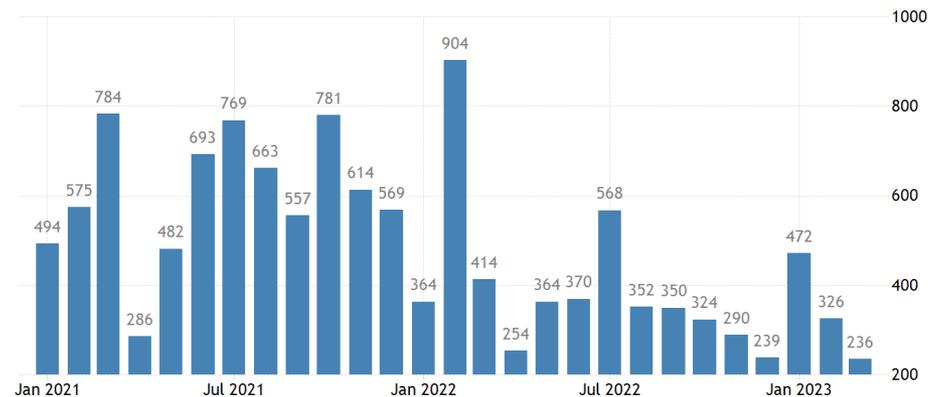
2. 米雇用者数は安定した伸びが続く

①3月の雇用者数の前月比(右上図)は+23.6万人の増加で事前予想とほぼ同じだった。

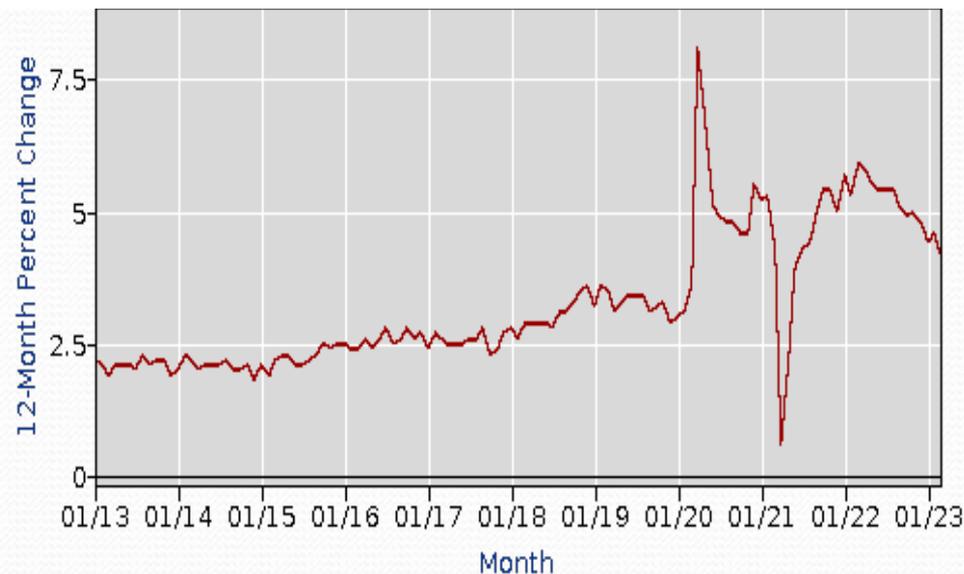
②雇用増加は業種別ではレジュー接客業+7.2万人、政府+4.7万人、専門職・ビジネスサービ+3.9万人、ヘルスケア+3.39万人。減少は小売業の▲1.46万人。

③失業率は3.5%と前月比▲0.1ポイントの低下。労働参加率は62.6%と▲0.1ポイントの低下。

④時間当たり賃金は前月比+9セント上昇して33.18ドルに、前年比(右下図)は+4.2%と前月比▲0.4ポイントの低下。



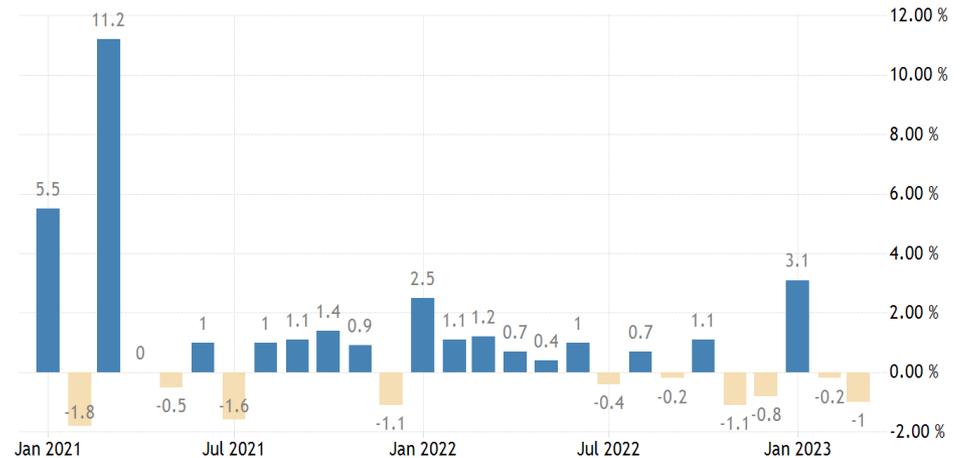
TRADINGECONOMICS.COM | U.S. BUREAU OF LABOR STATISTICS



3. 米小売売上高は消費者心理の悪化で弱い

①3月の小売売上高はインフレによる消費者心理の悪化を反映して前月比(右上図)▲1.0%、前年比(右下図)は+2.9%と弱い。実質では更にマイナス。

②業種	前月比	前年比
自動車	▲1.6%	+0.1%
家具	▲1.2%	▲2.4%
電気製品	▲2.1%	▲10.3%
建設資材園芸用品	▲2.1%	▲3.5%
食料品店	▲0.1%	+5.0%
健康ケア	+0.3%	+7.1%
ガソリンスタンド	▲5.5%	▲14.2%
衣服アクセサリ	▲1.7%	▲1.8%
スポーツ用品・趣味		
・書籍・音楽	+0.2%	+3.0%
総合スーパー	▲3.0%	+2.4%
無店舗販売	+1.9%	+12.3%
飲食業	+0.1%	+13.0%
合計	▲1.0%	+2.9%



TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU

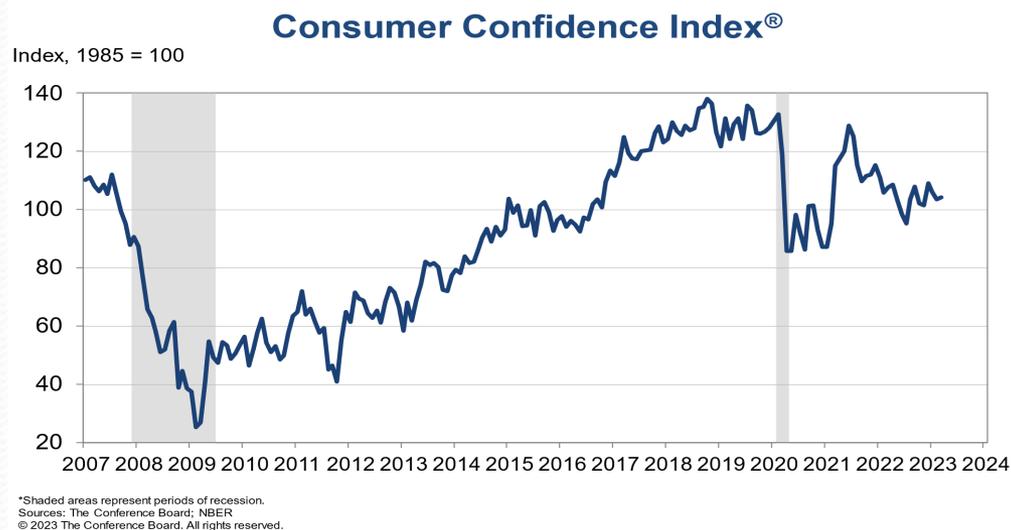


TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU

4. 米消費者信頼感指数は一進一退の動き

①4月のミシガン大学消費者信頼感指数(速報、右上図)は、63.5で前月比+1.5ポイントの上昇。現状指数は66.3から68.6に上昇、期待指数は59.2から60.3に上昇。消費者は少なくとも短期的には高インフレの持続を予想している。

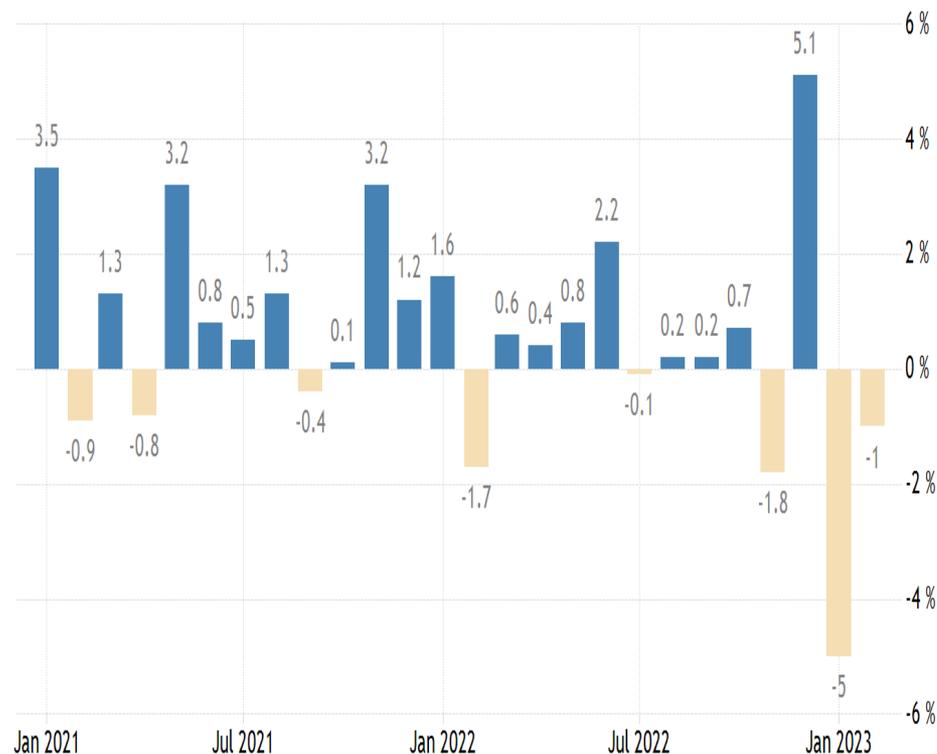
②3月コンファレンスボード消費者信頼感指数(右下図)は104.2で前月比+0.8ポイントの上昇。現状指数は2月153.0 → 3月151.1に低下、期待指数は2月70.4 → 3月73.0に上昇。



5. 米耐久財新規受注は輸送機器が足かせ

①2月の耐久財新規受注(速報)は航空機受注の反動減により前月比(右図)▲1.0%、前年比は+1.0%。輸送機器を除く耐久財新規受注は前月比0.0%、前年比+0.1%、国防を除く耐久財新規受注は前月比▲0.5%、前年比+0.7%

②民間設備投資の先行指標となる非国防資本財から航空機を除いたコア資本財受注は前月比+0.2%、前年比+3.2%。

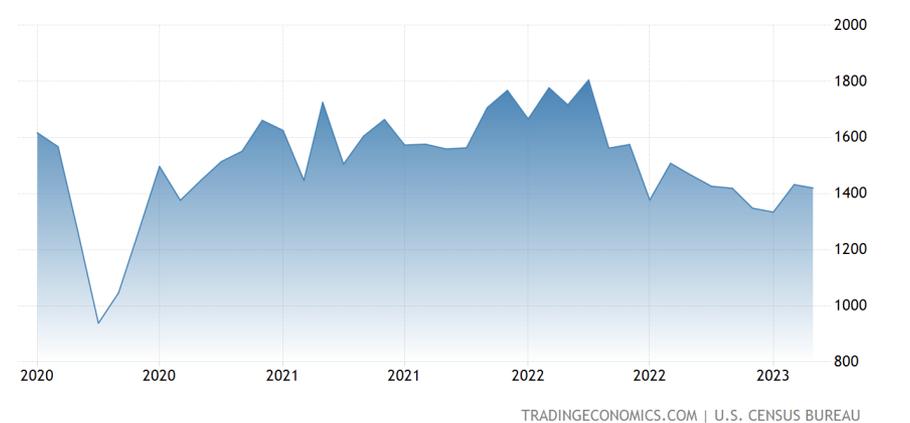


6. 米住宅統計は金利高止まりで弱い

①3月の米住宅着工戸数は年率142.0万戸（右上図）、前月比は▲0.8%、前年比は▲17.2%と弱い。住宅ローン金利は6.5%近辺で高止まり（右下図）。一戸建は前月比+2.7%、前年比は▲27.7%、集合住宅（5件以上）は前月比+▲6.7%、前年比は+6.1%。地域別は前月比、前年比で北東部+72.4%、▲14.2%、中西部▲23.6%、▲44.4%、南部+6.8%、+0.2%、西部▲28.1%、▲38.6%。

②1月のケースシラー住宅価格指数（20都市）は前月比▲0.6%、前年比+2.5%。

③2月の新築住宅販売戸数は年率64.0万戸、前月比+1.1%、前年比▲19.0%。地域別前月比、前年比は北東部▲40.0%、▲55.3%、中西部▲1.4%、▲20.2%、南部+3.0%、▲8.8%、西部+8.1%、▲33.2%。販売在庫比率は8.2ヶ月と前月より▲0.1ヶ月低下。



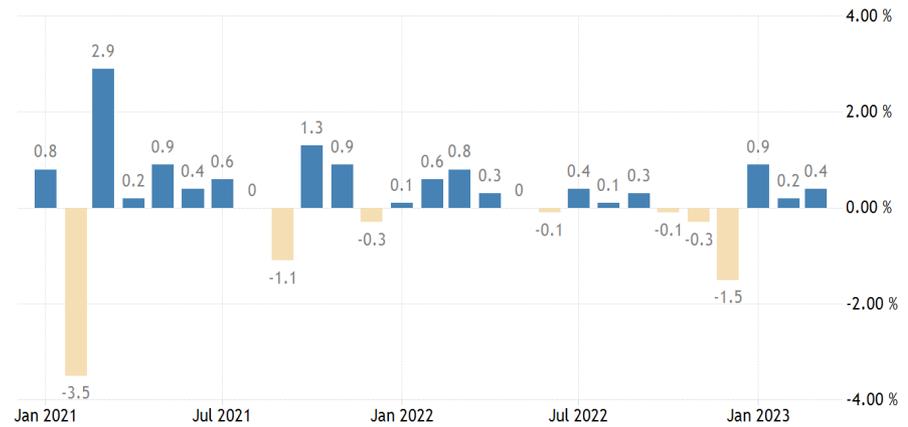
7. 米鉱工業生産は減速傾向が続く

①3月の米鉱工業生産指数は前月比+0.4%（右上図）。前年比は+0.5%（右下図）。

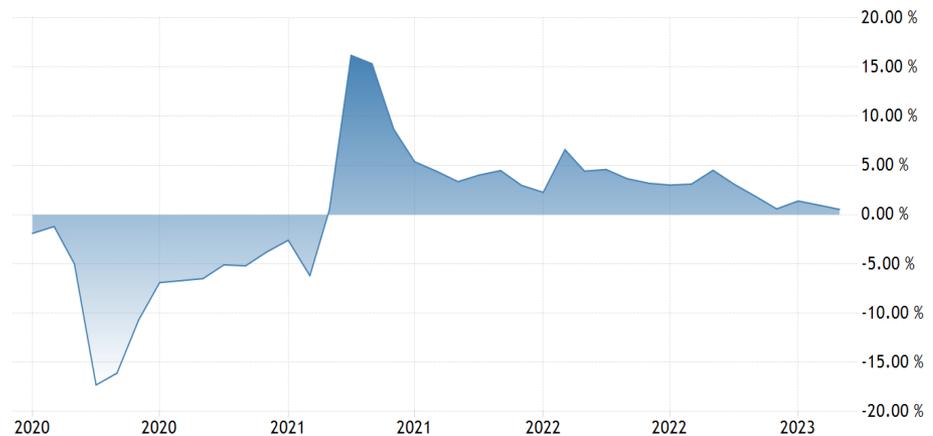
②鉱業の前月比は▲0.5%、前年比は+5.4%、公益事業の前月比は+8.4%、前年比+4.2%。

③製造業の前月比は▲0.5%、前年比は▲1.1%。うち自動車及び部品はそれぞれ▲1.5%、+1.9%、コンピュータ・電子機器は▲0.8%、▲1.4%、航空機は+0.7%、+3.4%、金属製品▲0.9%、▲1.3%、食料・飲料・タバコ▲0.4%、▲0.6%、化学は▲0.9%、▲0.8%。

④設備稼働率指数（製造業）は78.1と前月比▲0.5ポイント低下。長期平均78.2を▲0.1ポイント下回る。



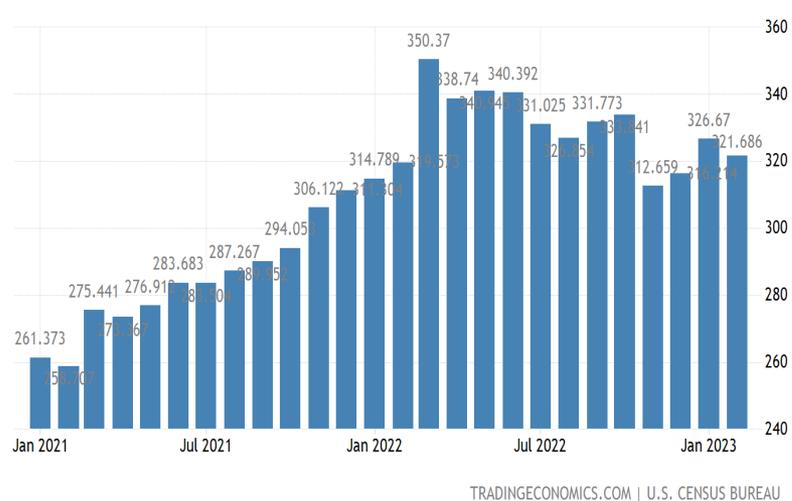
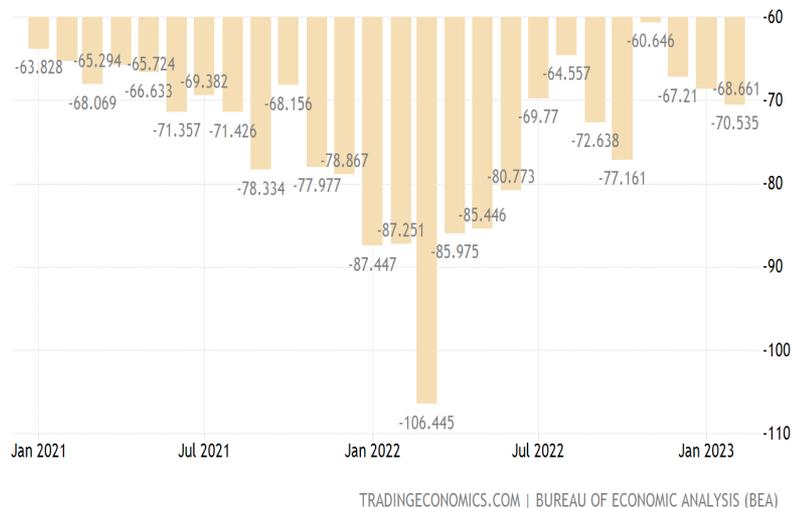
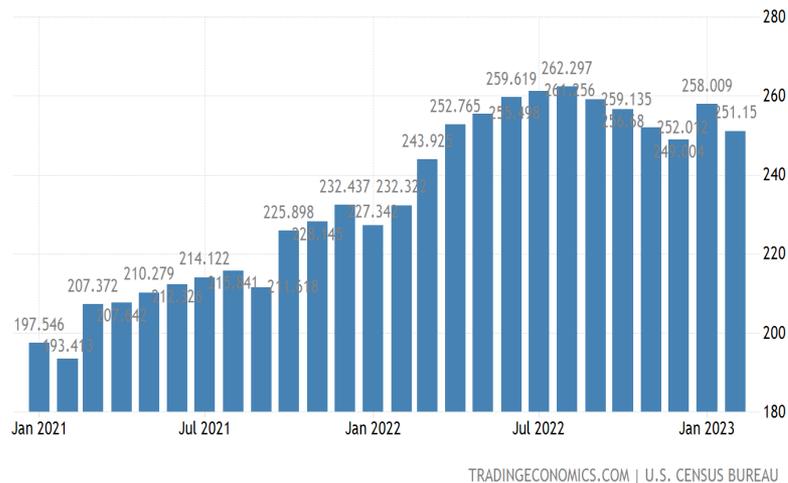
TRADINGECONOMICS.COM | FEDERAL RESERVE



TRADINGECONOMICS.COM | FEDERAL RESERVE

8. 米貿易は輸出入ともに頭打ちの様相

- ①2月の貿易・サービス収支(季調済、左下図)は前月比▲19億ドル悪化して▲705億ドルの赤字に拡大。
- ②財・サービス輸出(右上図)は前月比▲69億ドル減の2,512億ドル(前年比+8.1%)。前月比で工業用原材料▲26億ドル、消費財▲14億ドル、資本財▲13億ドル、自動車・部品▲19億ドル。
- ③財・サービス輸入(右下図)は前月比▲50億ドル減の3,217億ドル(前年比+0.7%)。前月比で消費財▲37億ドル、自動車・部品▲29億ドル。
- ④対中輸出は116.19億ドルで前年比+0.2%、対中輸入は306.21億ドルで前年比▲27.5%。都市封鎖の後遺症。



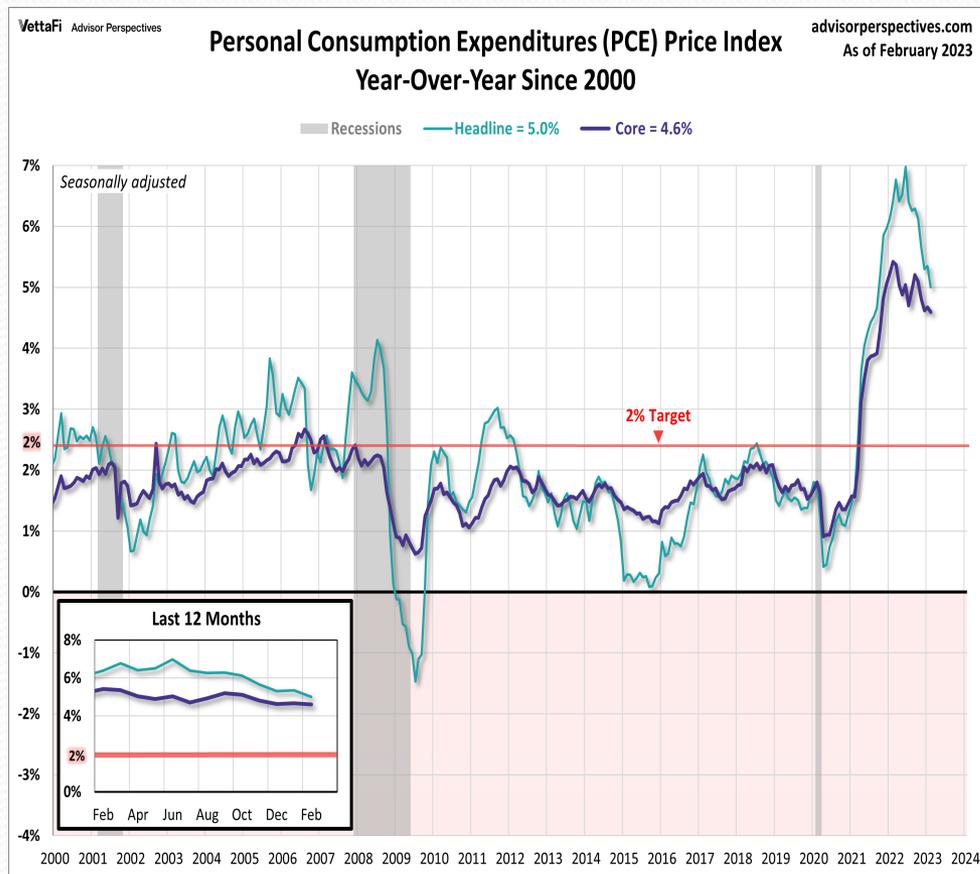
9. 米PCE物価指数の伸びは高止まり

①2月のPCE(個人消費支出)総合物価指数の前年比(右図緑線)は+5.0%と前月より▲0.3ポイント低下。前月比は+0.3%。

②エネルギーと食料を除くコアPCE物価指数の前年比(右図青線)は+4.6%と前月より▲0.1ポイント低下。依然としてFedの物価目標2%を上回る。前月比は+0.3%

③財価格の前年比+3.6%、前月比は+0.2%、サービス価格の前年比は+5.7%と前月より+0.1ポイント上回る、前月比は+0.3%。エネルギー価格の前年比は+5.1%、前月比は▲0.4%。

④期待インフレ率指標(BEI)は4月21日時点で10年物は2.30%、5年物は2.28%とほぼ横ばい。



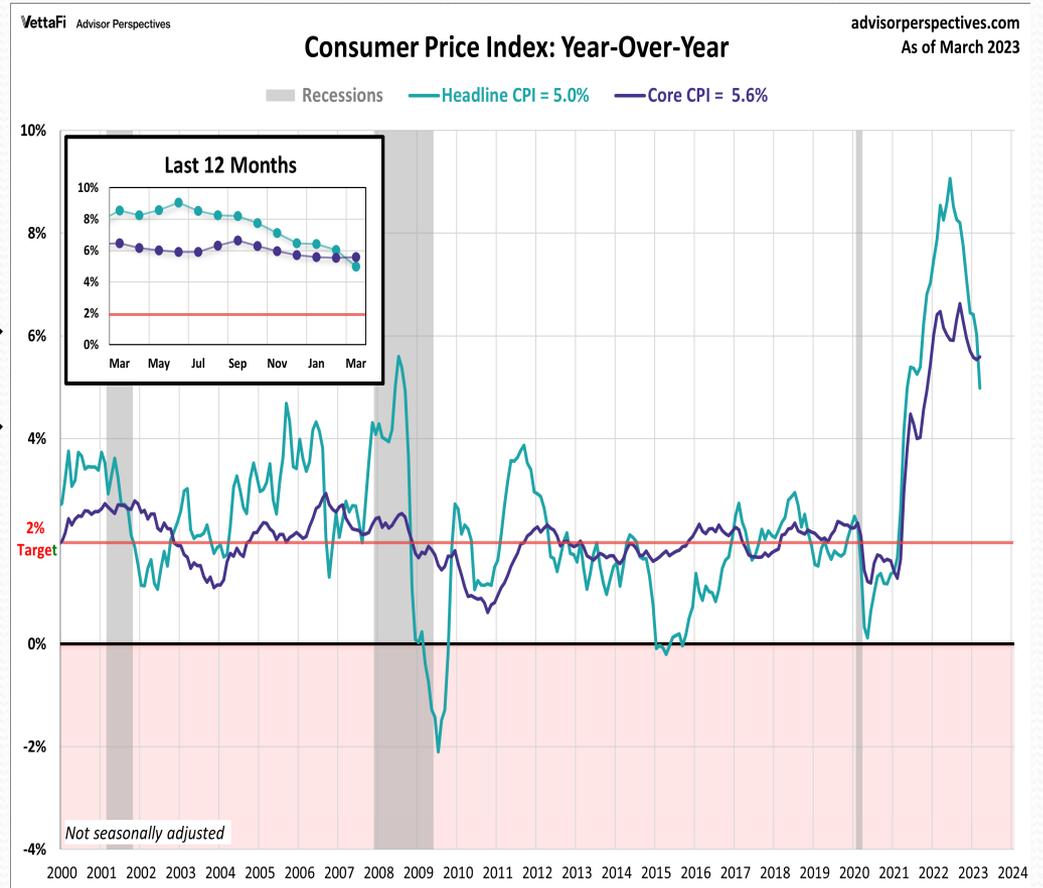
10. 米消費者物価はサービス価格が主導

①3月のCPI (消費者物価指数) 総合の前年比 (右図緑線) は+5.0%と前月より▲1.0ポイント伸びが低下した。前月比は+0.1%と落ち着き。

②エネルギーの前年比は▲6.4% (うちガソリン▲17.4%、燃料油▲14.2%、電気+10.2%、都市ガス+5.5%)、前月比は▲3.5% (うちガソリンは▲4.6%、燃料油は▲4.0%、電気▲0.7%、都市ガス▲7.1%)。

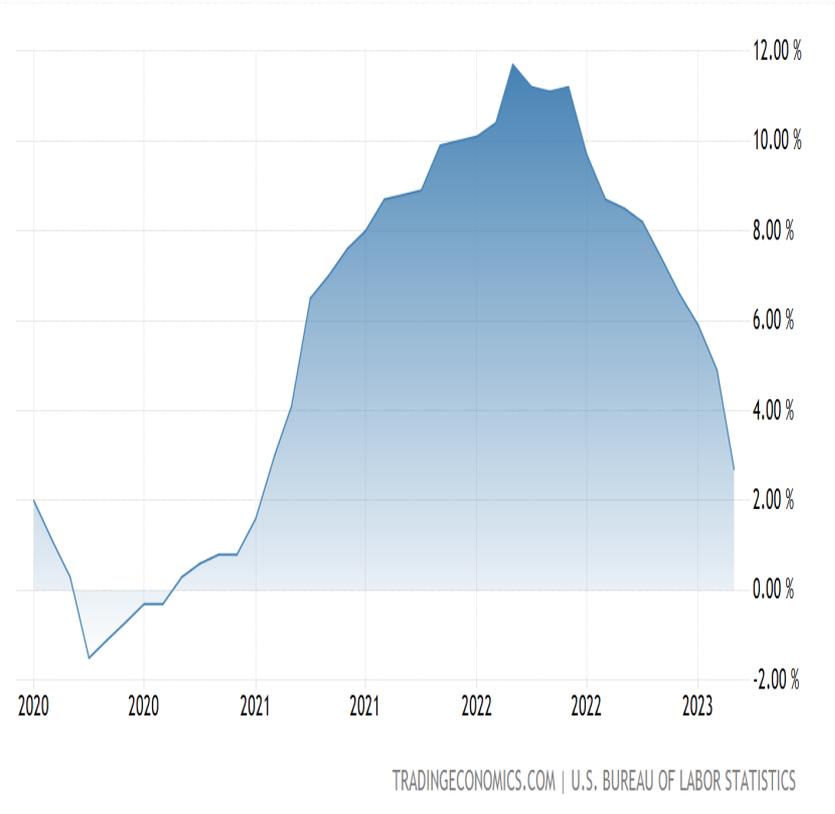
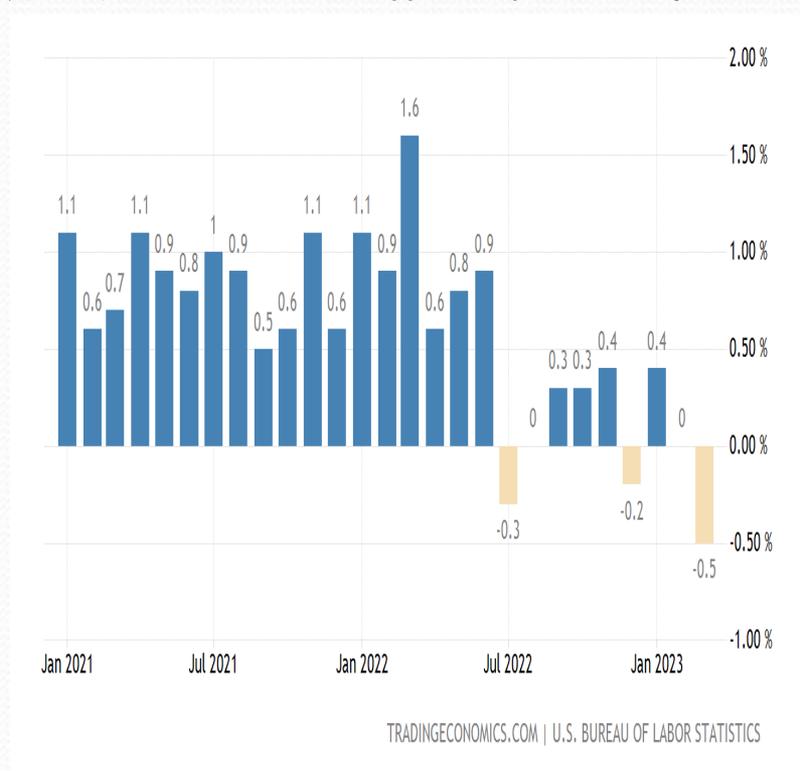
③エネルギーと食料を除くコアCPIの前年比 (右図青線) は+5.6%と前月より+0.1ポイント伸びが上昇。前月比は+0.4%。

④サービス価格の前年比は+7.1%、前月比は+0.4%とサービス主導のインフレとなっている。



11. 米生産者物価の伸びは減速傾向続く

3月のPPI(生産者物価指数)総合の前月比(左下図)は▲0.5%。前年比(右下図)は+3.4%と前月より▲1.4ポイント伸びが低下した。



12. 米製造業PMI指数は50割れが続く

①米サプライマネジメント協会 (ISM) の3月製造業PMI指数(右図濃青線)は47.9と前月比▲2.0ポイントの低下。項目別前月比では

新規受注▲2.7ポイント

生産+0.5

雇用▲2.2

供給者納入▲0.4

在庫▲2.6

顧客在庫+2.0

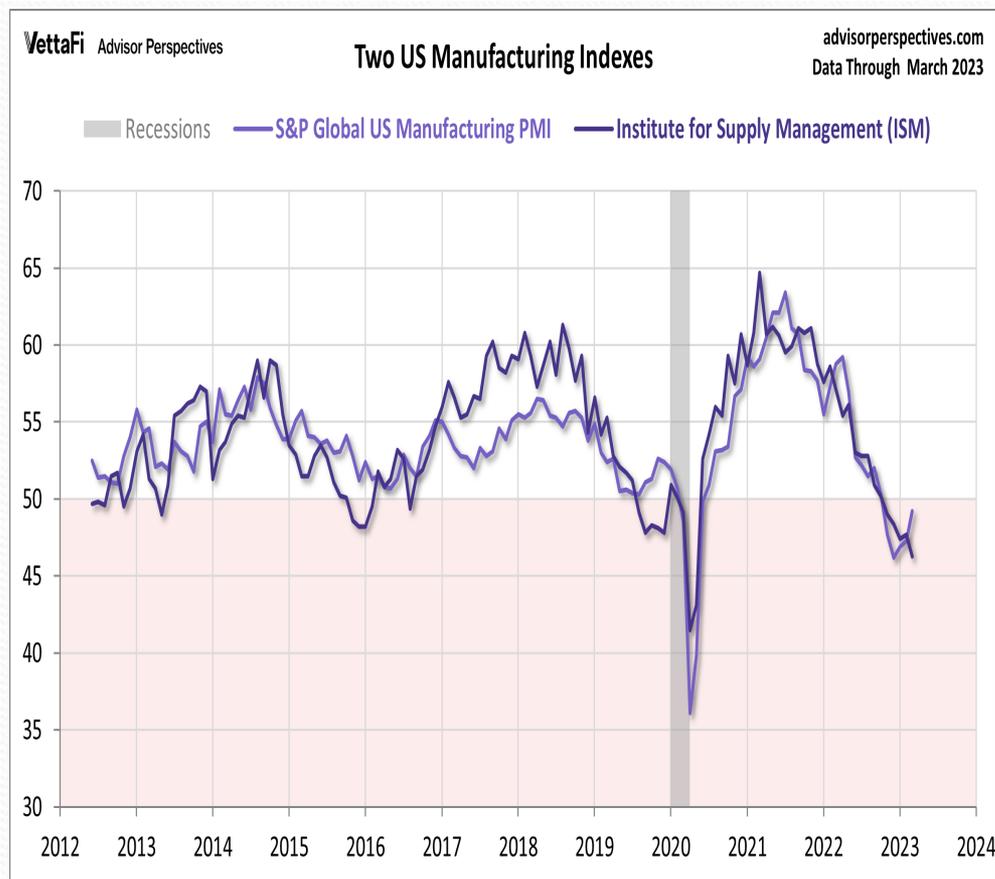
価格▲2.1

受注残▲1.2

新規輸出受注▲2.3

輸入▲2.0

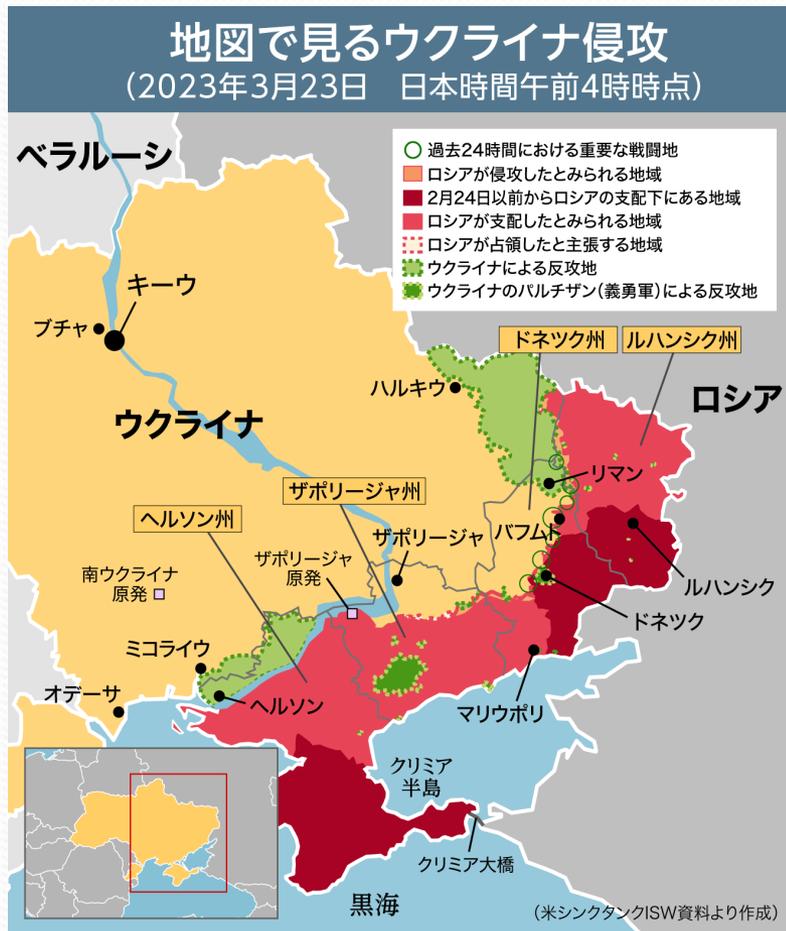
②3月Markit製造業PMI指数(右図薄青線)は49.2と前月比+1.9ポイント上昇。





II 欧州經濟

1. ウクライナ戦争は膠着状態続く



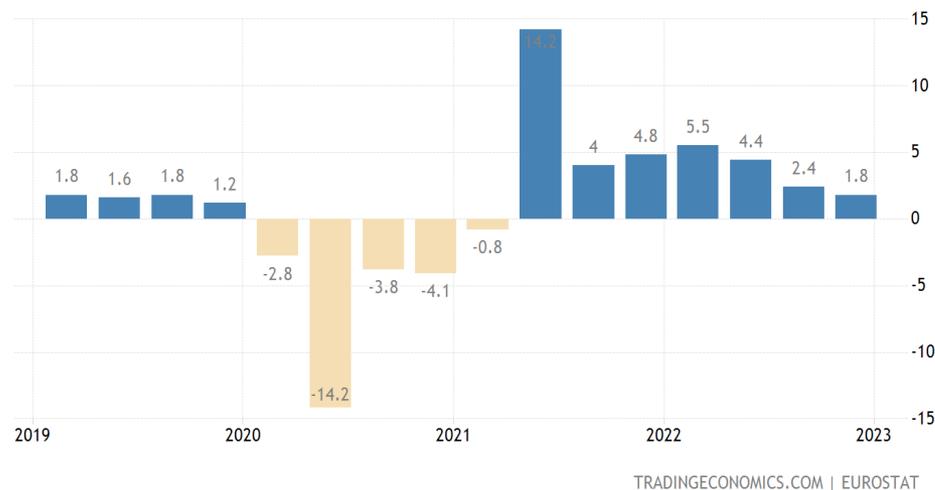
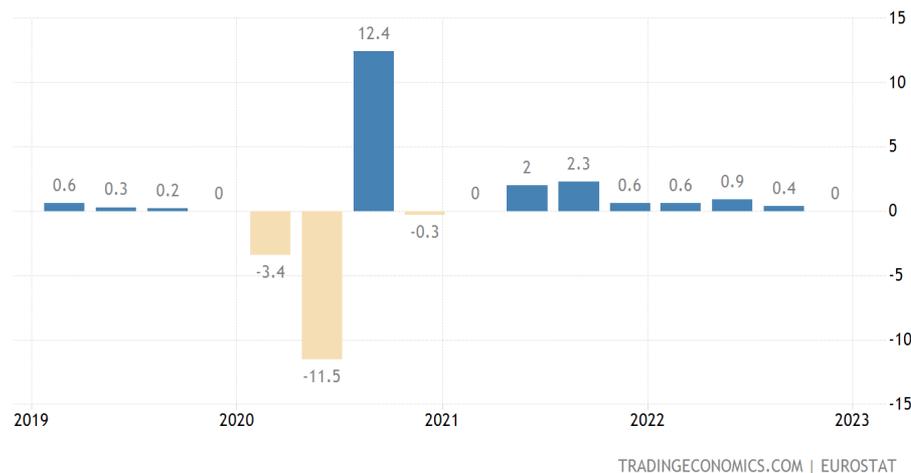
2. 10～12月期のユーロ圏のGDPは減速傾向続く

①10～12月期のユーロ圏GDP(確報)は前期比(右上図)+0.0%、前年比(右下図)は+1.8%。

②前期比で独▲0.4%、仏+0.1%、伊▲0.1%、スペイン+0.2%、ポルトガル+0.3%、オーストリア0.0%、ベルギー+0.1%。

③前年比で独+0.9%、仏+0.5%、伊+1.4%、スペイン+2.7%、ポルトガル+3.2%、オーストリア+3.0%、ベルギー+1.4%。

④BREXITした英国は前期比0.0%、前年比+0.4%。



3. ユーロ圏小売売上高(数量)は不振が続く

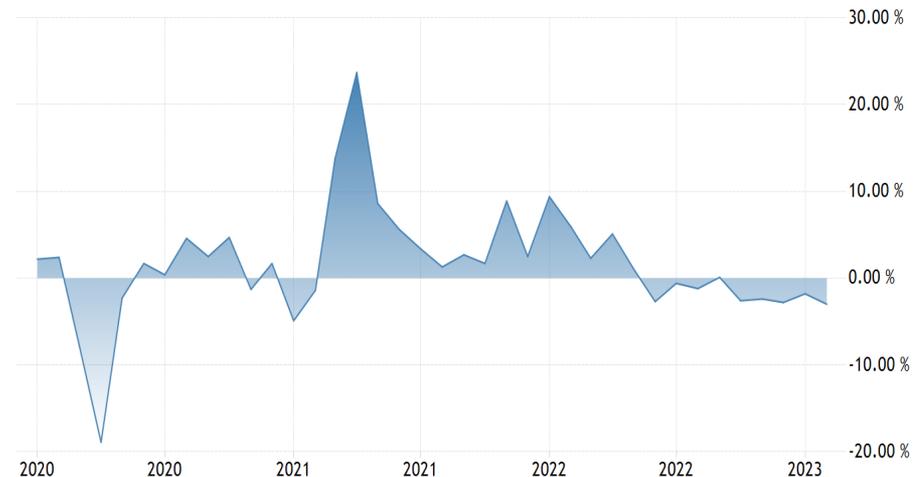
①2月のユーロ圏小売売上高(数量ベース、季調済)は前月比▲0.8%(右上図)、前年比(右下図)は▲3.0%と不振。インフレと金利上昇が消費を抑制。

②商品別前月比で食料・飲料・タバコ▲0.6%、非食料製品▲0.7%(うち通信販売・インターネット+2.6%)、自動車燃料▲1.8%。

③商品別前年比では食料・飲料・タバコ▲4.9%、非食料製品▲1.8%(うち通信販売・インターネット▲6.4%)、自動車燃料+1.1%。



TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT



TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

5. ユーロ圏の鉱工業生産は改善の兆し

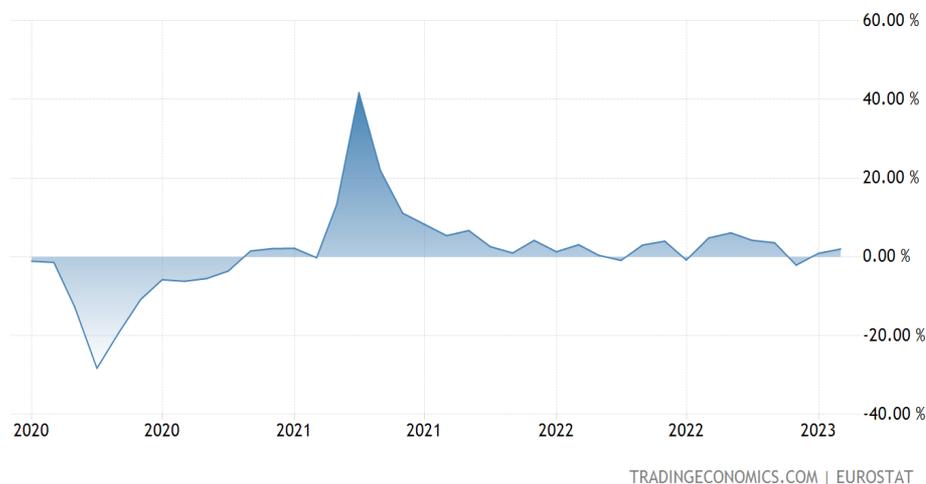
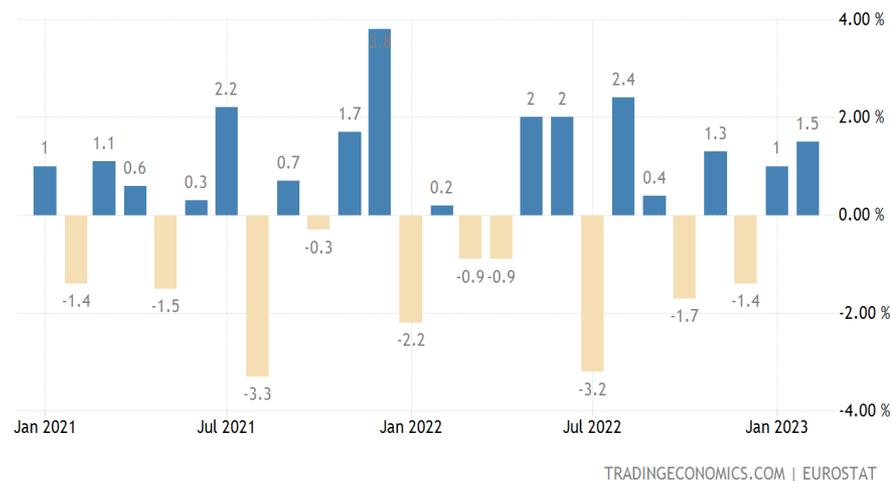
①2月のユーロ圏鉱工業生産は前月比(右上図)+1.5%、前年比(右下図)は+2.0%。

②項目別の前月比は中間財+1.1%、エネルギー+1.1%、資本財+2.2%、耐久消費財+0.2%、非耐久消費財+1.9%。

③前年比では中間財▲4.9%、エネルギー▲3.3%、資本財+10.4%、耐久消費財▲3.5%、非耐久消費財+3.3%。

④国別の前月比ではドイツ+2.1%、仏+1.1%、スペイン+0.6%、ポルトガル▲2.0%、オランダ+1.1%、デンマーク+3.1%、オーストリア+1.4%。

⑤前年比ではドイツ+0.5%、仏+1.2%、スペイン▲0.9%、ポルトガル+2.8%、オランダ▲0.4%、デンマーク+15.7%、オーストリア+5.2%。



6. ユーロ圏の失業率はそろそろ下げ止まりか

①2月のユーロ圏失業率(右図)は6.6%と前月と変わらず、前年同月より▲0.2ポイント低下したが、ボトムに近い。

②最低はチェコの2.4%、最高はスペインの12.8%。

③前年2月との比較では独3.1%→2.9%、仏7.3%→7.0%、伊8.4%→8.0%、スペイン13.2%→12.8%、アイルランド4.6%→4.3%に低下。

一方、オランダ3.4%→3.5%、デンマーク4.3%→5.2%、オーストリア4.8%→5.0%、ポルトガル5.6%→6.8%に上昇。

④英国の失業率は3.8%で前月比+0.1ポイント上昇(英国統計局)。

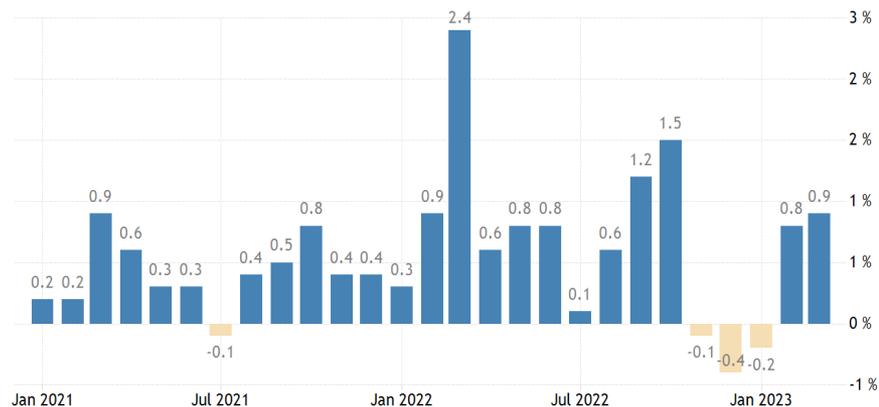


7. ユーロ圏のインフレは非エネルギーが主導

①3月のユーロ圏消費者物価(CPI)の前年比(右下図)は前月の伸びから▲1.6ポイント低下し+6.9%、前月比は+0.9%(右上図)

②コアCPI(エネルギー・食料・アルコール・タバコを除く)の前年比は+5.7%と前月より+0.1ポイントと伸びが高まる。前月比+1.2%。

③項目別の前年比で食料・アルコール・タバコは1月+14.1%→2月+15.0%→3月+15.4%。エネルギーは+18.9%→+13.7%→+▲0.9%。非エネルギー工業製品は+6.7%→+6.8%→+6.6%。サービスは+4.4%→+4.8%→+5.0%。



TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT



TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

8. ユーロ圏製造業PMIは弱含み、サービスは堅調

①製造業PMIは2月47.3→3月45.5

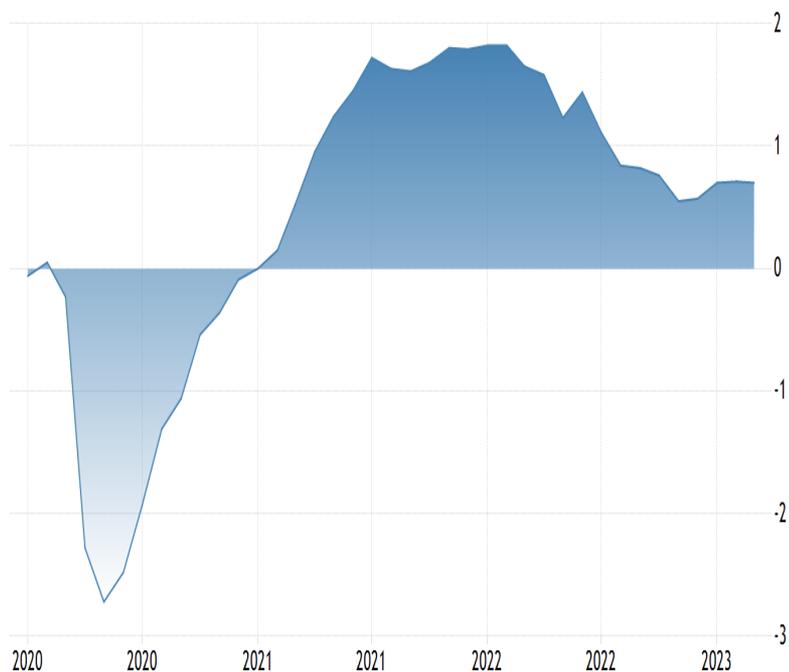
②サービス業PMIは2月55.0→3月56.6



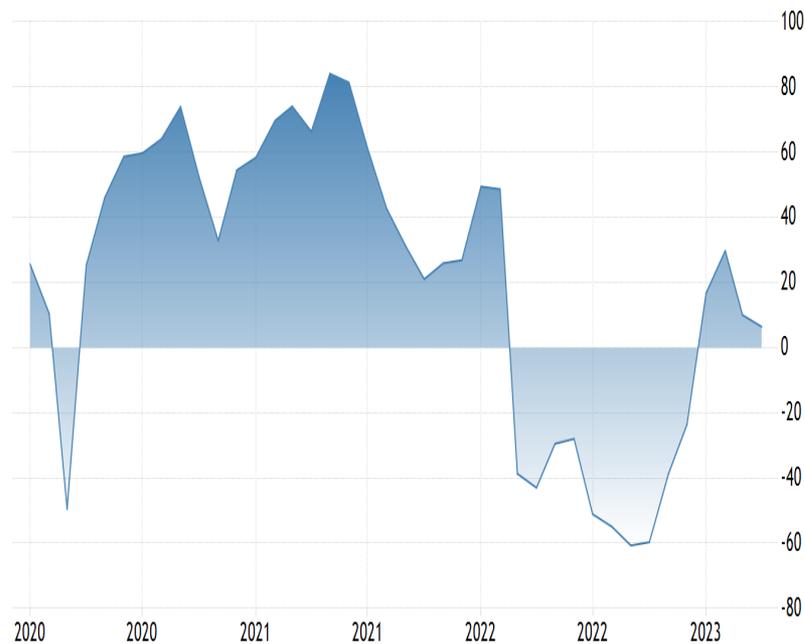
9. ユーロ圏景況感は物価、成長、金利の不透明が影響

①3月のユーロ圏業況指数 (EU委員会) は +0.72と反転の兆し。

②4月のユーロ圏ZEW景況感指数は先行き不透明感から前月比▲3.6ポイント低下して+6.4。



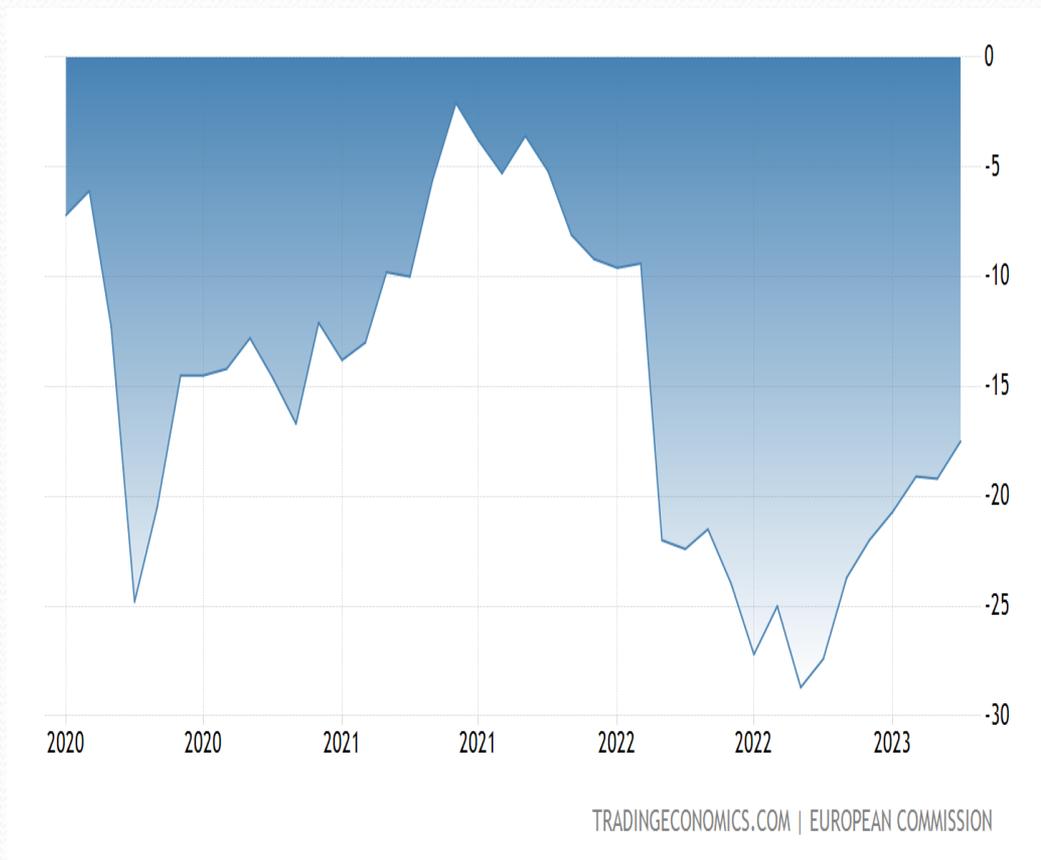
TRADINGECONOMICS.COM | EUROPEAN COMMISSION



TRADINGECONOMICS.COM | CENTRE FOR EUROPEAN ECONOMIC RESEARCH (ZEW)

10. ユーロ圏消費者信頼感指数は回復傾向続く

欧州委員会が発表
した4月のユーロ圏
消費者信頼感指数
(右図)は前月より
+1.7ポイント改善
して▲17.5。

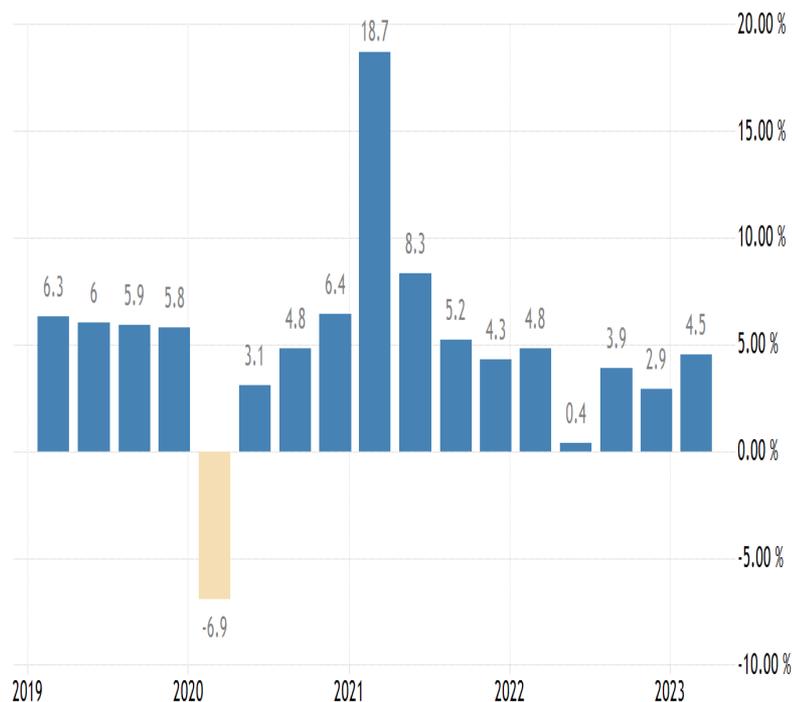




III 中国經濟

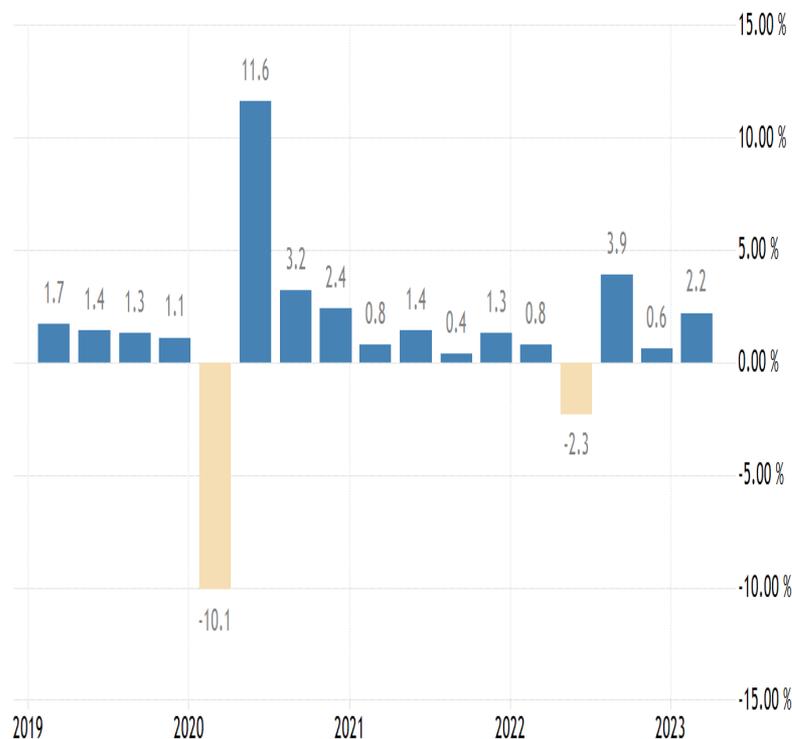
1. 中国の1～3月期GDPはゼロコロナ停止で+4.5%に

①ゼロコロナ政策停止で前年比は+4.5%に加速



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

②前期比は+2.2%に加速



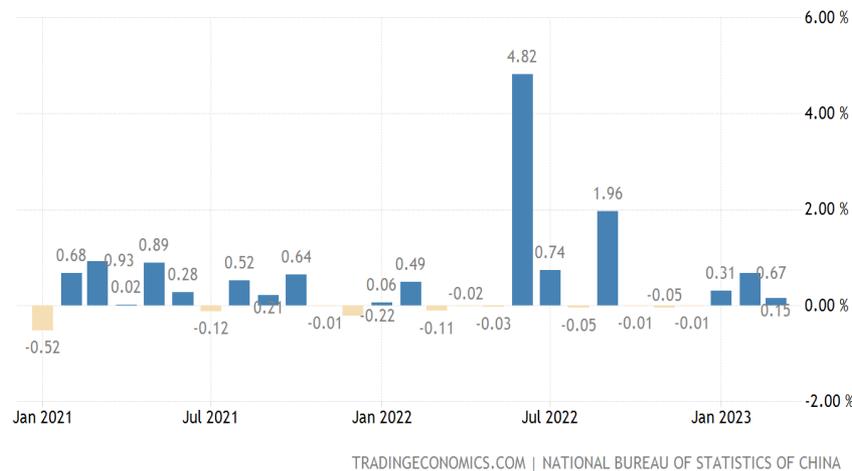
TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

2. 中国の消費はゼロコロナ解除で回復に転じる

①3月の小売売上高の前年比(右下図)は+10.6%と2ヶ月連続の増加。ゼロコロナ政策解除で大幅な伸び。3月の前月比(右上図)は+0.15%。

②商品別の前年比は以下の通り

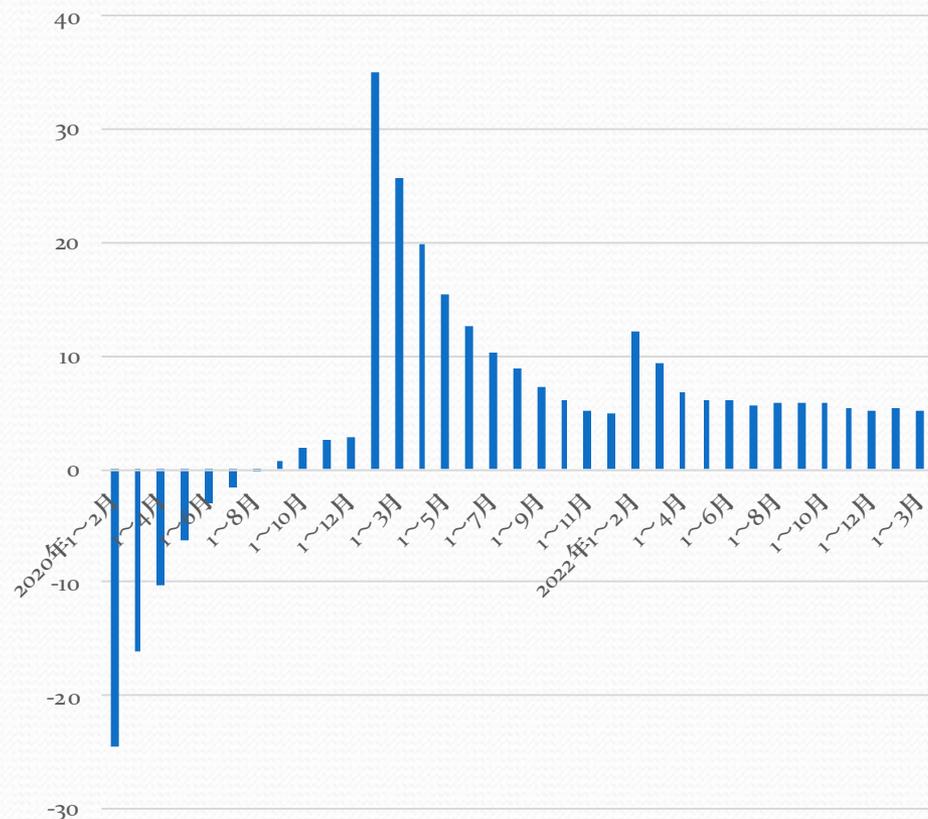
	12月	1~2月	3月
通信機材	▲4.5%	▲8.2%	+1.8%
自動車	+0.7%	▲9.4%	+11.5%
建設資材	▲6.2%	▲0.9%	▲4.7%
家具	▲4.5%	+5.2%	3.5%
家庭電器	▲13.1%	▲1.9%	▲1.4%
宝飾品	▲18.4%	+5.9%	+37.4%
化粧品	▲19.3%	+3.8%	+9.6%
石油製品	▲2.9%	+10.9%	+9.2%
服飾類	▲12.5%	+5.4%	+17.7%
事務用品	+4.4%	▲1.1%	▲1.9%
医薬品	+39.8%	+19.3%	+11.7%
日用品	▲9.2%	+3.9%	+7.7%
合計	▲1.8%	+3.5%	+10.6%



3. 中国の固定資産投資は公共投資主導続く

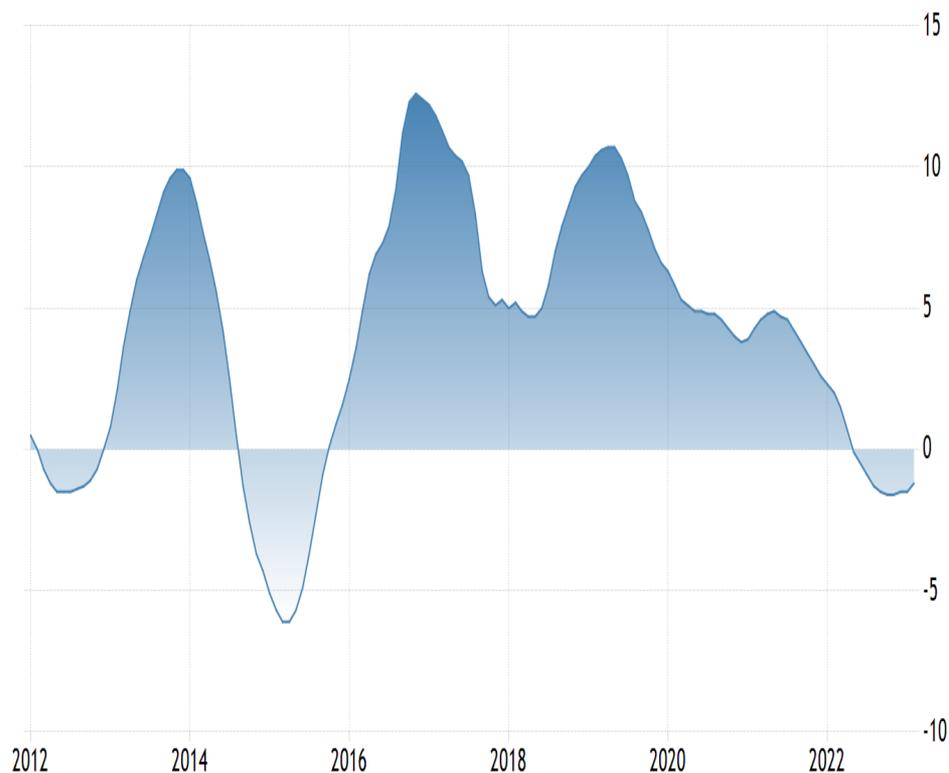
- ①1~3月累計の固定資産投資は前年比+5.1%(右図)。
- ②民間投資は+0.6%、公共投資の伸びは+10.0%。
- ③鉱業は+0.6%。製造業+7.0%、うち食品製造+5.8%、紡績業▲4.3%、化学+19.2%、医薬▲1.9%、非鉄金属+10.8%、金属製品+2.2%、自動車製造+19.0%、鉄道・船舶・航空▲7.9%、電気機械+43.1%、コンピュータ・通信+14.5%、電力・ガス・水道+22.3%、鉄道運輸は+17.6%、道路運輸は+8.5%、水利環境公共施設+7.8%。

中国の固定資産投資(前年比、%)



4. 中国の住宅価格は前年比11ヶ月連続マイナス

3月の70都市新築住宅価格の伸びは▲0.8%と前月より+0.4%ポイント改善するも(右図)、11ヶ月連続で前年比マイナス。不動産開発業者の巨額債務が足かせになっている。但し、ゼロコロナ解除で前月比は+0.5%。

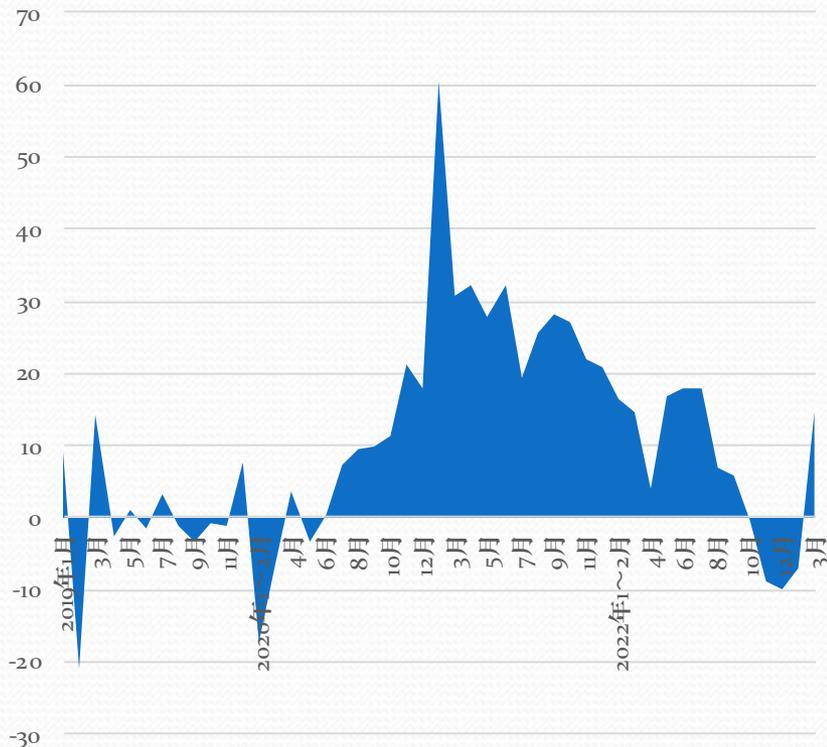


5. 中国の貿易統計は低迷脱却を示唆

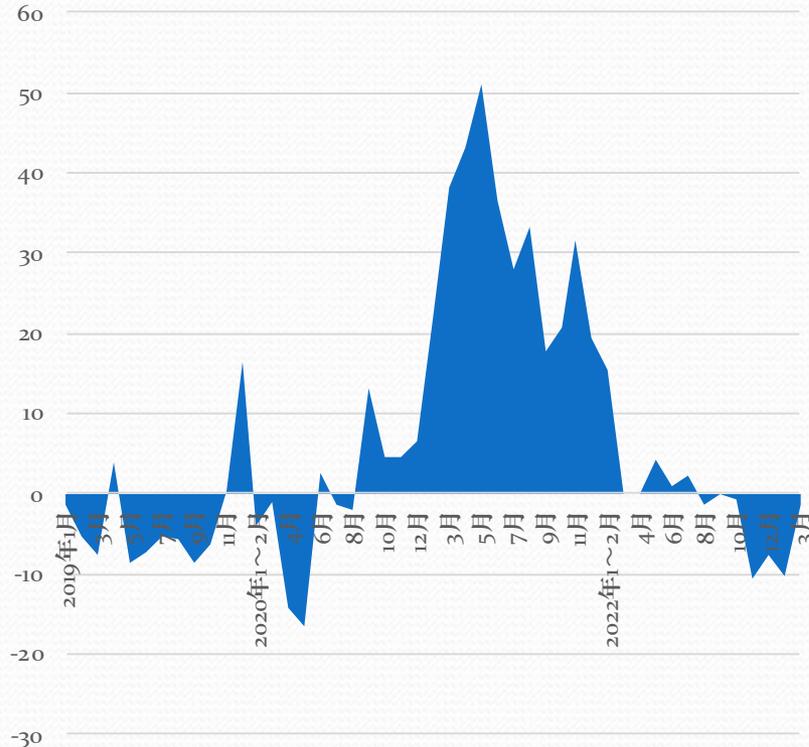
①3月の輸出は前年比+14.8%と5ヶ月ぶりの増加で市場予想の▲7%は大きく外れた。途上国向け、新興国向けがリードした模様。

②3月の輸入の伸びは前年比▲1.4%と減少幅が大きく縮小した。

中国のドル建て輸出(前年比、%)



中国のドル建て輸入(前年比、%)

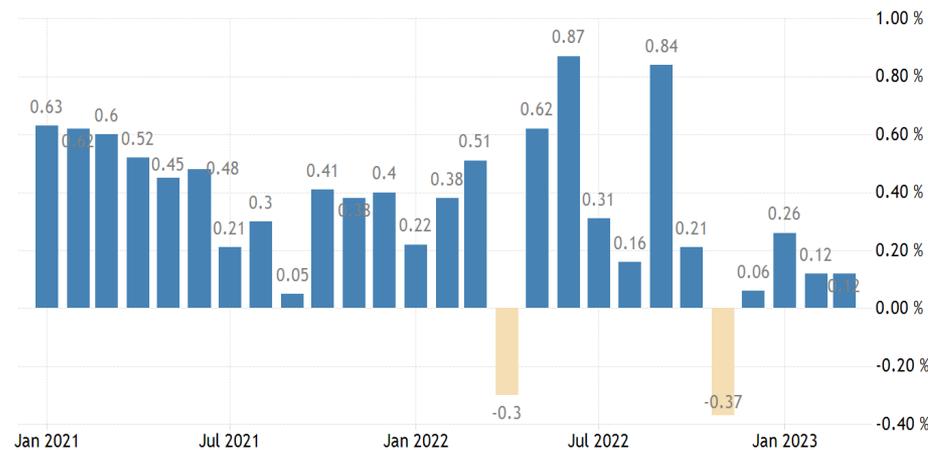


6. 中国鋳工業生産はゼロコロナ解除で緩やかな回復

①3月の鋳工業生産の前年比(右下図)は+3.9%の伸び。3月の前月比(右上図)は+0.12%。

②製造業の前年比は+4.2%。電気・ガス・水道は+5.2%、鋳業は+0.9%。

③食品製造は前年比+2.5%、紡績▲3.1%、化学+7.1%、医薬製造▲8.3%、非金属鋳物製品+3.8%、鉄鋼+6.0%、非鉄金属+7.0%、金属製品+4.8%、自動車+13.5%、鉄道・船舶・航空機+8.6%、電気機械+16.9%、コンピュータ・通信+1.2%。



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

7. 中国の失業率は政府目標の5.5%を下回る

3月の全国都市失業率(農民工は統計に含まれず)は5.3%と前月より▲0.3ポイント低下

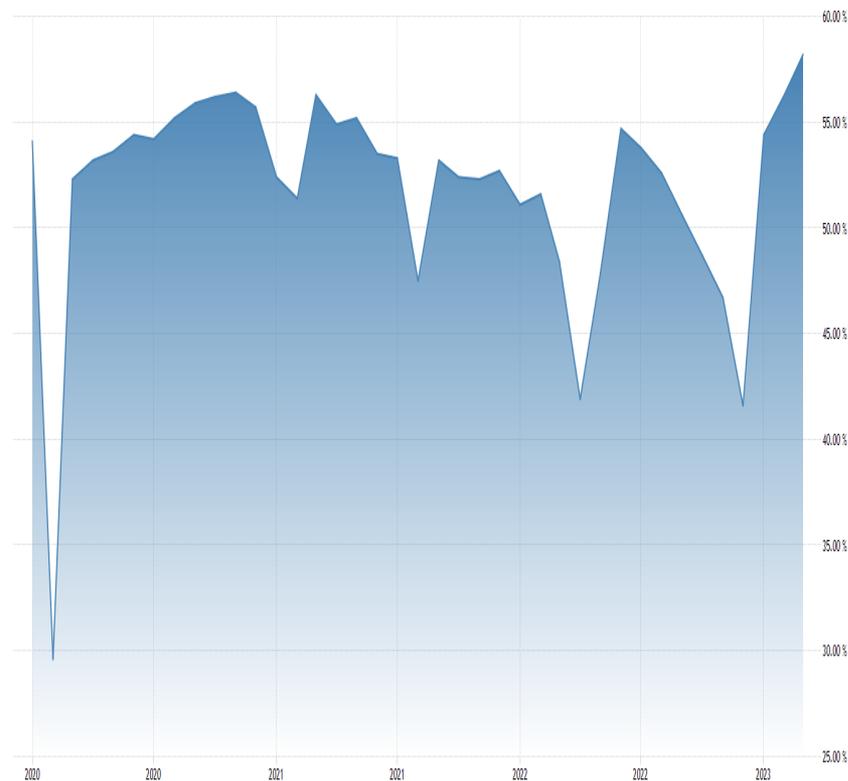
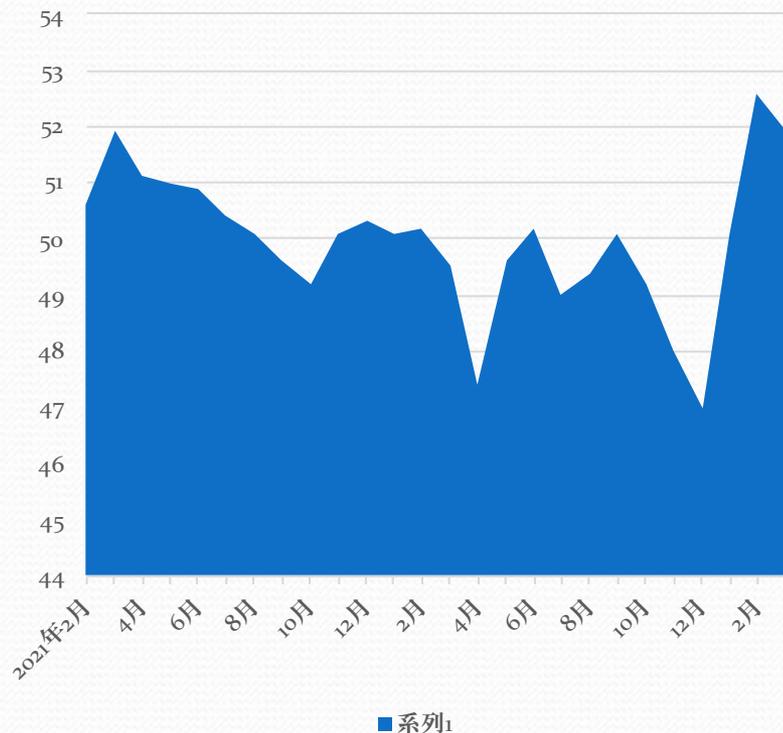


8. 中国PMI指数はウイズコロナに転換で50を超える

①3月製造業PMIは51.9と前月より▲0.7ポイント低下。

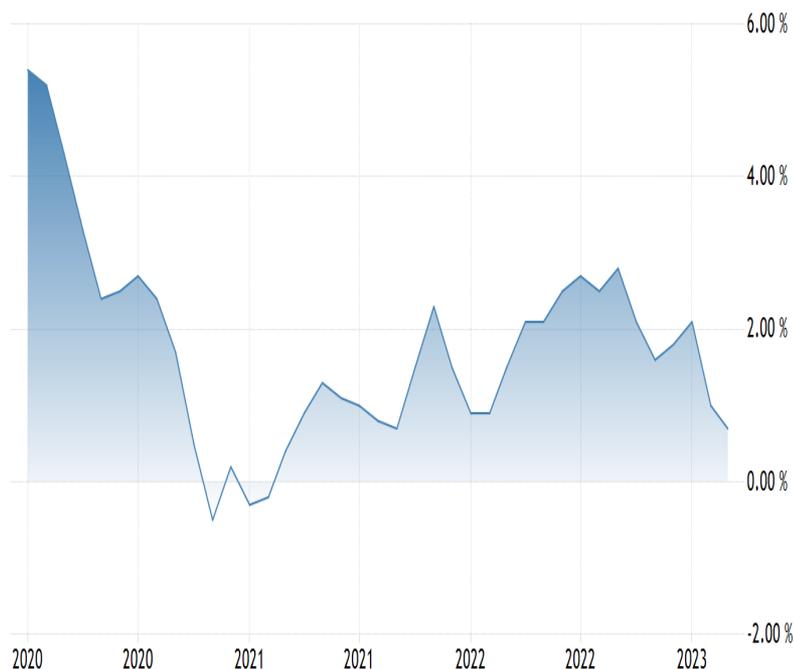
②3月非製造業PMIは58.2と前月より+1.9ポイントの急上昇。

中国製造業PMI指数



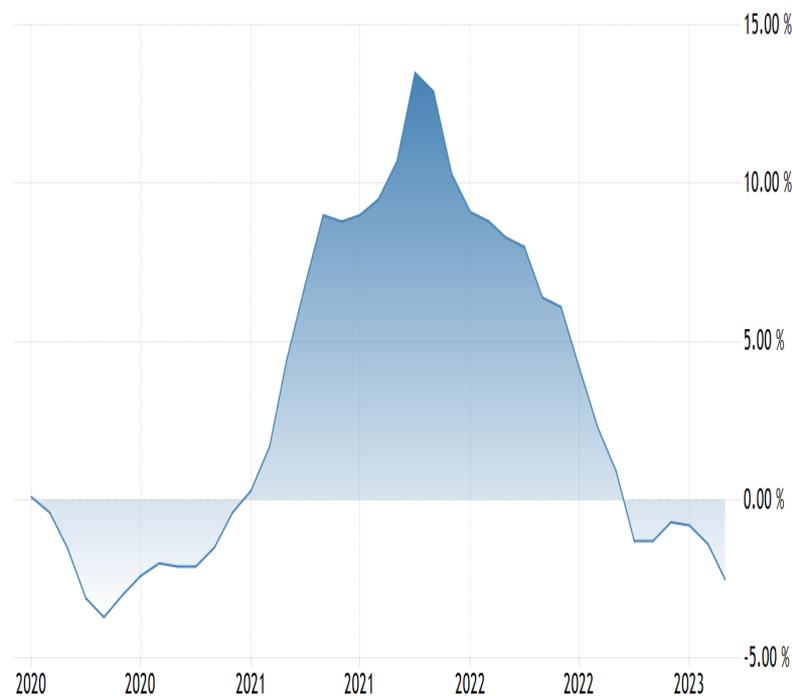
9. 中国の消費者物価、生産者物価共に低い伸び

①3月の消費者物価の前年比(左図)は+0.7%と前月より▲0.3ポイント低下。全般に減速。前月比は▲0.3%の下落。



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

②3月の生産者物価の前年比(右図)は▲2.5%と前月より▲1.1ポイント伸びが低下。前月比は横ばい



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA



IV 日本經濟

1. 日銀短観の大企業製造業の景況感は5期連続悪化

①日銀短観(3月調査)によれば大企業製造業の業況判断DI(「良い」-「悪い」、%ポイント)は前回12月調査より▲6ポイント悪化して+1。先行き6月予想は+3と+2ポイントの改善を見込んでいる。大企業非製造業は+1ポイント上昇して+20。先行きは▲5ポイント低下の+15を予想。

②中堅企業DIは製造業▲5(12月比▲6)、非製造業+14(+3)、中小企業は製造業▲6(▲4)、非製造業+8(+2)。先行き3月比は中堅製造業が+1、中堅非製造業が▲6、中小製造業が+2、中小非製造業が▲5と製造業の改善、非製造業の悪化を予想。

③経常利益の23年度計画は前年度比で大企業は製造業▲2.7%、非製造業▲3.5%、全産業▲3.1%。中堅企業は製造業▲6.6%、非製造業▲2.8%、全産業▲4.1%。中小企業は製造業+3.5%、非製造業+0.1%、全産業+0.9%。全規模合計で製造業▲2.7%、非製造業▲2.6%、全産業▲2.6%を予想。

④生産・営業用設備判断(「過剰」-「不足」・%ポイント)は大企業製造業+1、大企業非製造業▲3。設備投資計画は23年度で大企業製造業+5.8%、大企業非製造業+1.6%。大企業全産業+3.2。

⑤雇用人員判断(「過剰」-「不足」・%ポイント)は12月、3月、6月予想で大企業製造業は▲14→▲14→▲14、大企業非製造業▲28→▲33→▲33と人員不足が続く予想。



2. 10～12月期のGDPは投資需要が弱く低い伸び

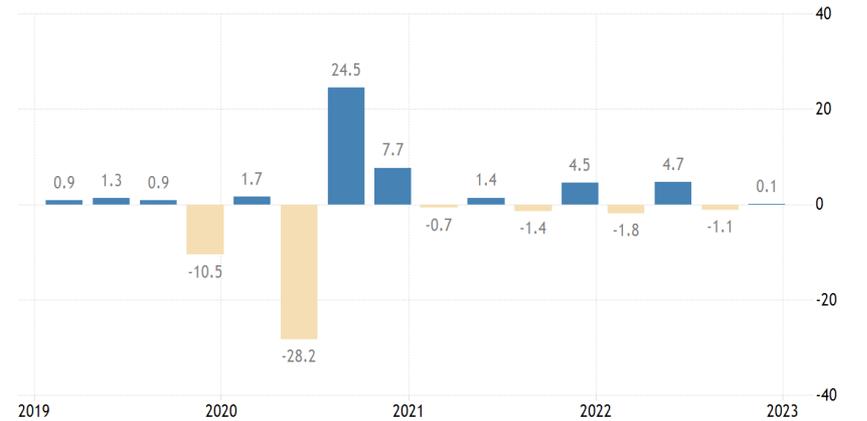
①10～12月期の実質GDP(2次速報値)は前期比+0.0%、前期比年率+0.1%(右上図)とほぼ横ばい。力強さに欠ける内需を外需が辛うじてカバーした。内需の寄与度は▲0.3%、外需+0.4%。実質GDPの前年同期比(右下図)は+0.4%と前期より▲1.1ポイント伸びが低下。

②名目GDPは前期比+1.2%、前期比年率+4.7%、前年比は+1.6%。GDPデフレーターは前期比+1.1%、前年比も+1.2%。

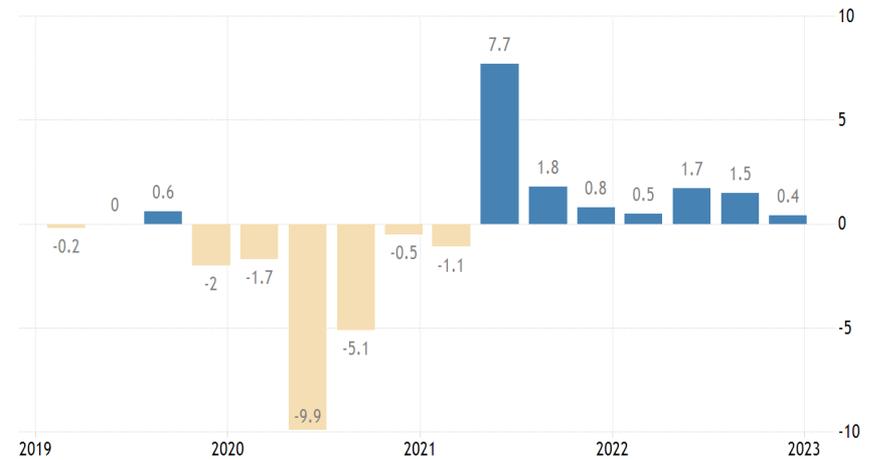
③需要項目別で民間最終消費支出は前期比+0.3%(年率+1.3%)、寄与度は+0.2%。民間企業設備は前期比▲0.5%(年率▲2.0%)、寄与度は▲0.1%。民間住宅は前期比▲0.0%(年率▲0.0%)、寄与度▲0.0%。民間在庫変動の寄与度▲0.5%。

④政府最終消費は前期比0.3%(年率1.0%)、公的固定資本形成は前期比▲0.3%(年率▲1.2%)で、政府支出合計の寄与度は+0.1%。

⑤輸出は前期比+1.5%(年率+6.0%)、寄与度は+0.3%、輸入は前期比▲0.4%(年率▲1.6%)、寄与度は+0.1%。



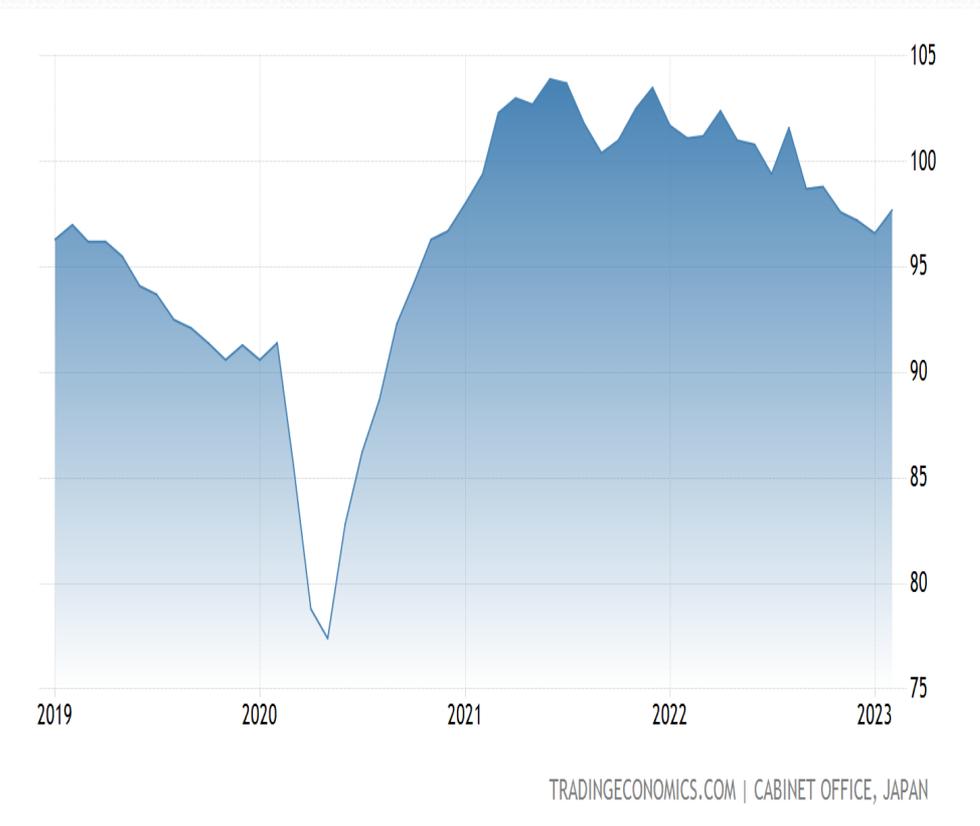
TRADINGECONOMICS.COM | CABINET OFFICE, JAPAN



TRADINGECONOMICS.COM | CABINET OFFICE, JAPAN

3. 景気動向指数(先行)は下降傾向がやや一服

- ①2月の先行指数(右図)は97.7で、前月比+1.1ポイントで4ヶ月ぶりの上昇。
- ②一致指数は99.2で前月比+2.8ポイントと6ヶ月ぶりの上昇。
- ③遅行指数は99.2で前月比▲1.4ポイントと7ヶ月ぶりの下降。
- ④内閣府の基調判断(一致指数)は「足踏みを示している」に据え置き。

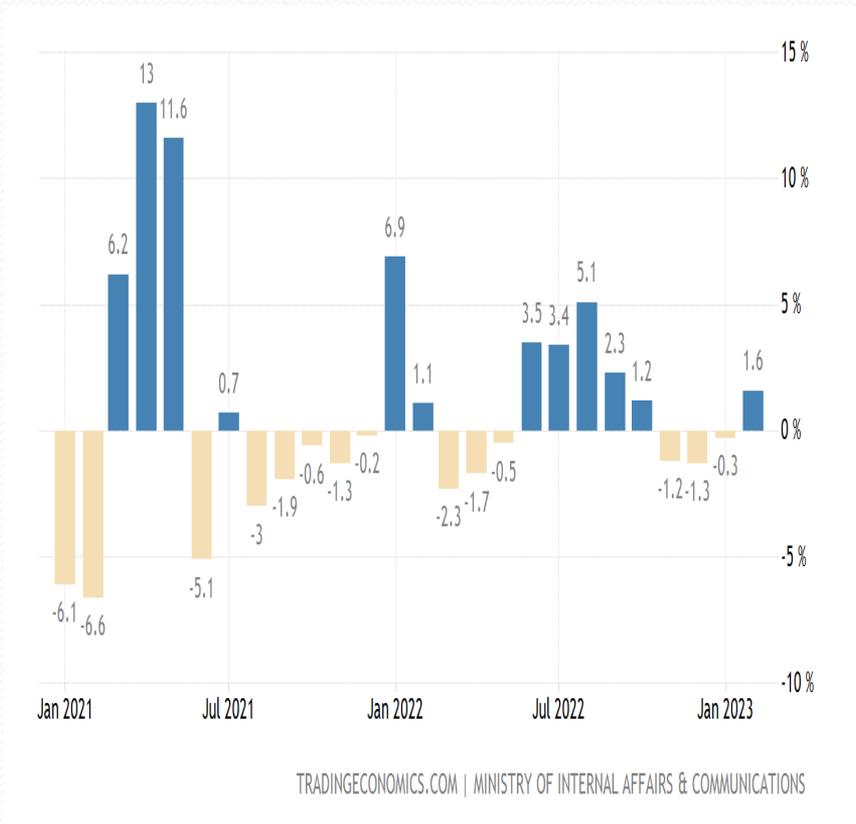
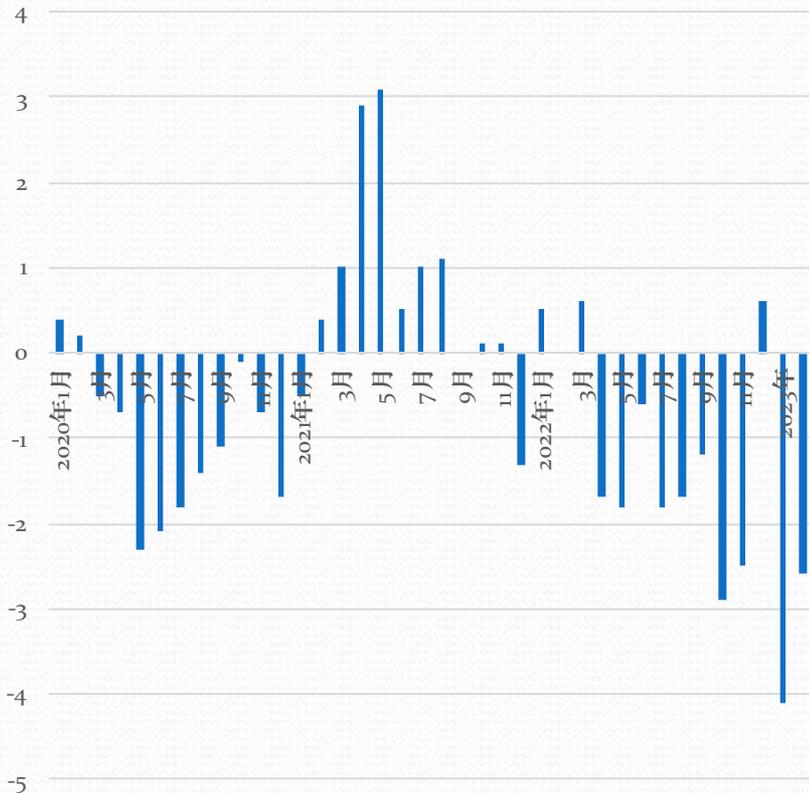


4. インフレ加速で実質賃金はマイナス続く

(1) 2月の現金給与総額の前年比+1.1%、所定内給与は+1.1%、所定外給与+1.7%、特別給与▲1.7%。実質賃金の伸び(下図)▲2.6%。

(2) 2月の家計消費は物価上昇から前年比で名目+5.6%、実質は+1.6%(下図)。費目別実質伸び率は教養娯楽+10.8%、光熱・水道+13.2%、被覆・履物+10.4%。住居▲12.1%、教育▲15.9%。

日本の実質賃金の伸び(前年比、%)



5. 機械受注(船舶・電力除く民需)は足踏みが続く

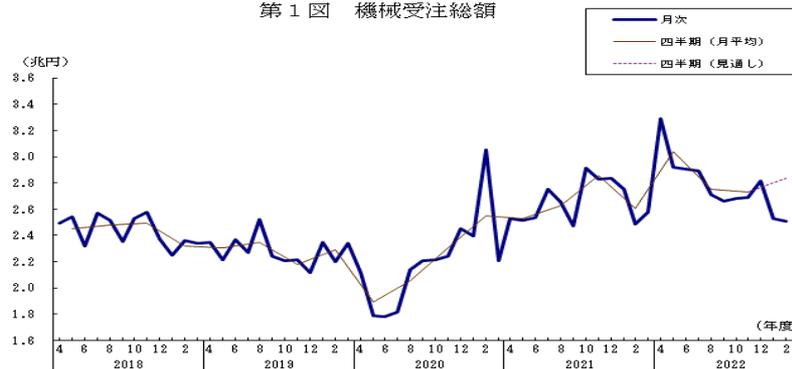
①民間設備投資の先行指標である2月の機械受注「船舶・電力を除く民需」(右下図)は前月比は▲4.5%の減少、前年比は+9.8%の増加。

②製造業受注は前月比+10.2%、前年比は+0.7%。前月比で17業種中、非鉄金属、石油製品・石炭製品など8業種が増加。パルプ・紙・紙加工品、窯業・土石製品など9業種が減少。

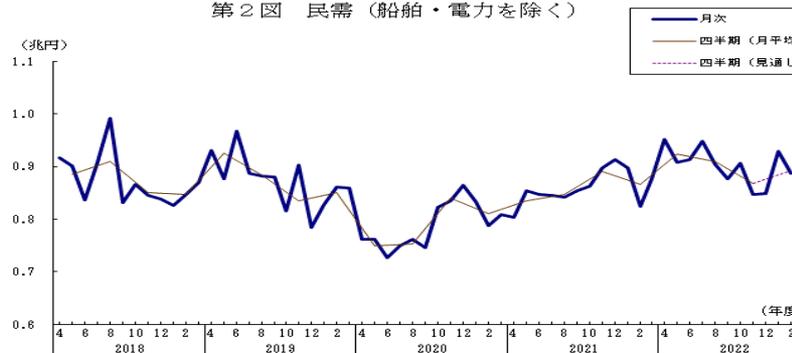
③非製造業受注(船舶・電力を除く)は前月比▲14.7%、前年比+19.7%。前月比で12業種中、増加したのは不動産業、通信業など6業種で、建設業、金融業・保険業など6業種が減少。

④内閣府の基調判断は「足踏みがみられる」に据え置き。

第1図 機械受注総額



第2図 民需(船舶・電力を除く)



〈備考〉

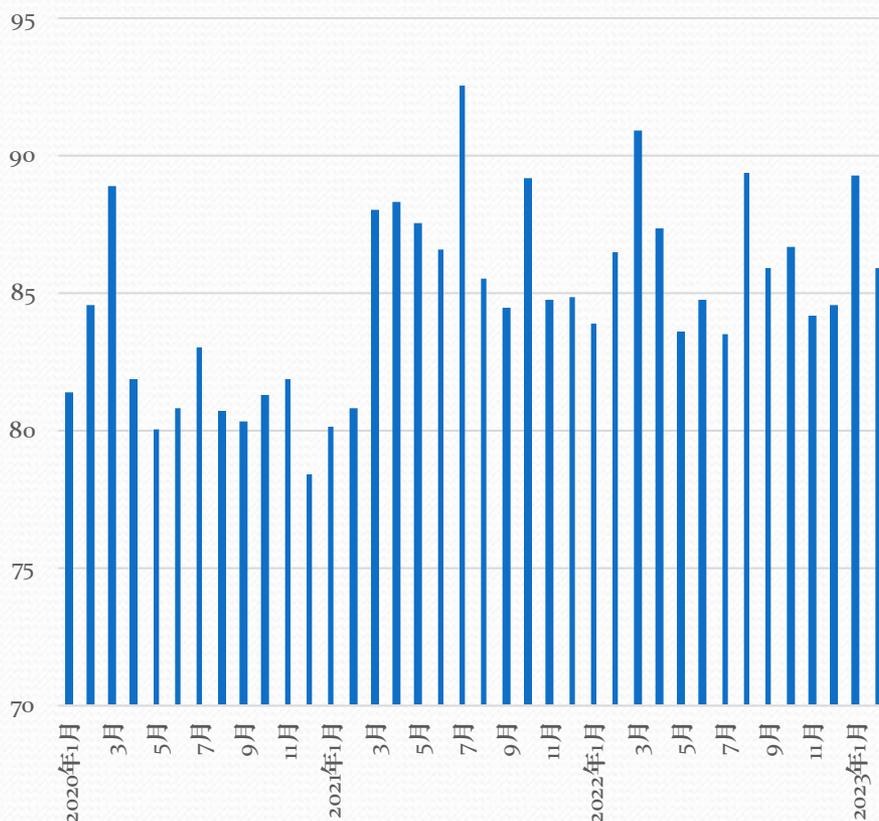
1. 四半期(月平均)は季節調整済みの月平均値を期央月の位置に表示(例えば7~9月の月平均値は8月の位置に表示)。
2. 「2023年1~3月(見通し)」の計数は、「見通し調査(2022年12月末時点)」の季節調整値を3で割った数値。
3. 2023年1月調査(同年3月18日公表)において、季節調整系列の溯及改訂を行ったため、それに伴い「2023年1~3月見通し」(同年2月18日公表)も改訂されている。

6. 住宅着工戸数は一進一退の動き

①2月の住宅着工戸数は64,426戸で前年比は▲0.3%。季調済年率でい85.9万戸(右図)、前月比は▲3.8%と3ヶ月ぶりの減少。

②持家は18,368戸、前年比は▲4.6%と15ヶ月連続の減少。貸家は24,692戸、前年比は+4.7%と24ヶ月連続の増加。分譲住宅は21,062戸、前年比は▲1.8%で3ヶ月ぶりの減少。分譲マンションは9,750戸、前年比は+0.2%で3ヶ月連続の増加。分譲一戸建て住宅は11,202戸、前年比は▲3.3%で4ヶ月連続の減少。

日本の新設住宅着工戸数(季調済、万戸)

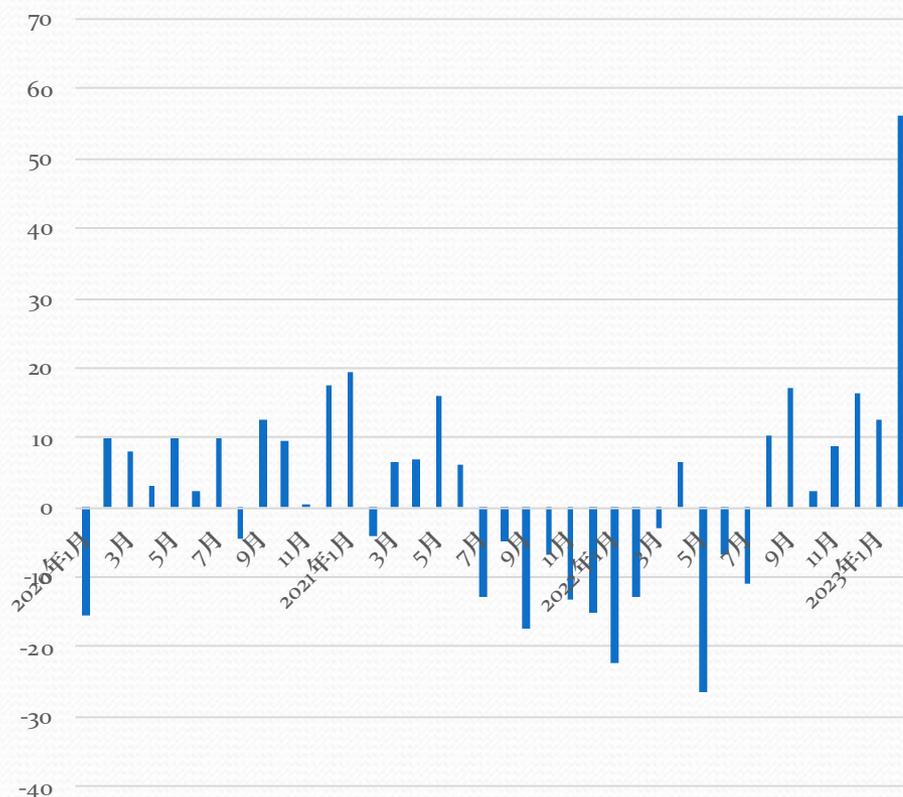


7. 公共工事受注は7ヶ月連続プラスの伸び

①2月の公共工事受注は前年比+56.0%と7ヶ月連続の増加。(注:推計方法の変更により、データは21年3月までと21年4月以降とは連続性がない)

②工事分類別では土木工事は+34.6%、建築工事・建築設備工事+135.0%、機械装置等工事+48.2%。

公共機関からの受注工事(前年比、%)



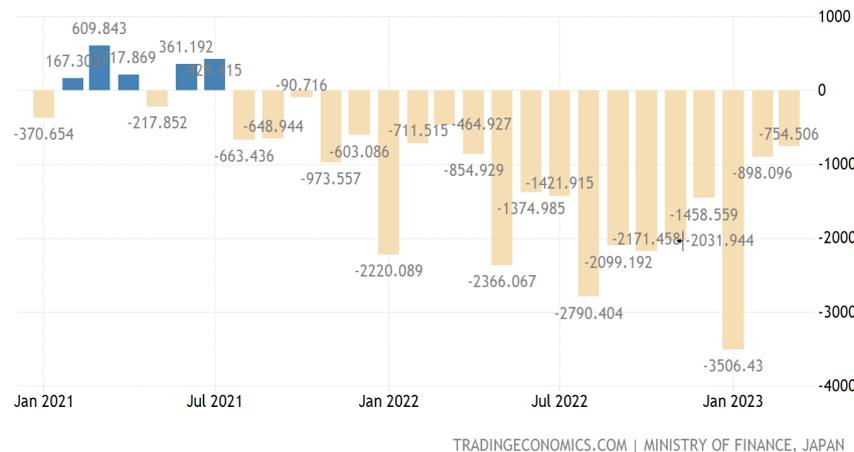
8. 輸出、輸入共に数量の減少が続く

①3月の貿易収支は前年比▲2,896億円悪化して▲7,545億円(右上図)の赤字に拡大。輸出は前年比+4.3%、金額は8兆8,243億円。数量(右下図)前年比は▲8.1%、価格前年比+13.6%。輸入は前年比+7.3%、金額は9兆5,788億円。数量の前年比▲2.6%、価格の前年比+10.2%。令和4年度の貿易収支は前年度比▲16兆円1,418億円悪化して、▲21兆7,285億円の大幅赤字。

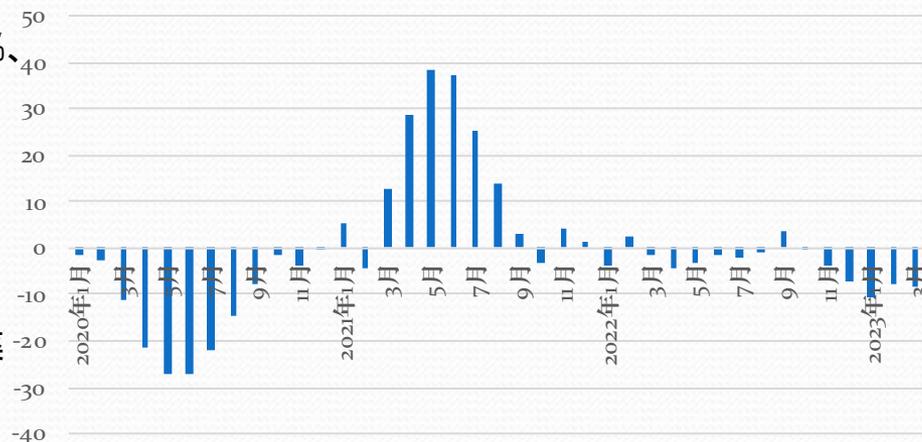
②地域別輸出でアジア向けは▲1.1%(うち中国▲7.7%、香港+6.9%、台湾▲1.8%、韓国▲0.8%、シンガポール+2.7%、タイ+11.4%、インドネシア+7.5%、インド+47.9%)、米国+9.4%、西欧+4.8%、中東+32.3%、ロシア▲17.1%。

④商品別輸出は自動車+38.3%、航空機類+90.2%、非鉄金属+10.9%、建設用・鉱山用機械+12.9%、医薬品+29.0%、自動車部品▲13.6%、プラスチック▲14.6%。

⑤商品別輸入は鉱物性燃料+13.3%(うち原油及び粗油+8.6%、石油製品+35.3%、LNG+4.5%、石炭+28.4%)、自動車+25.5%、衣類・同付属品+22.0%、金属製品+18.0%、原動機+57.6%。医薬品▲32.0%、非鉄金属▲34.6%。



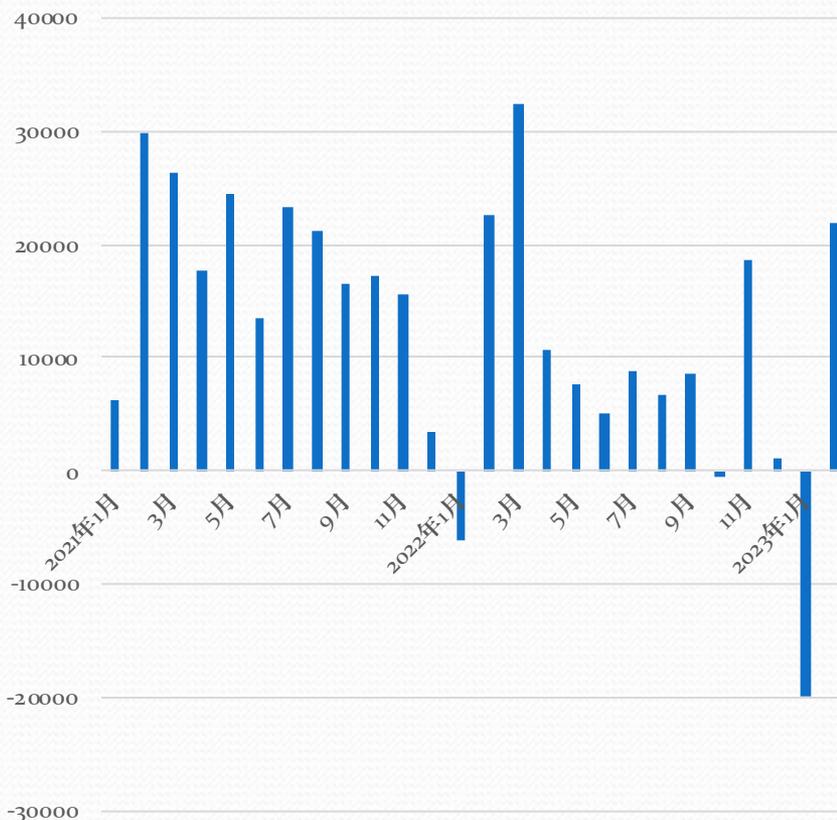
日本の輸出数量の伸び(前年比、%)



9. 貿易赤字拡大を所得収支黒字拡大で相殺

- ①2月の経常収支(右図)は前年比▲514億円黒字幅が縮小して、+2兆1,972億円の黒字。
- ②2月の貿易収支は前年比▲4,091億円赤字幅が拡大して▲6,041億円の赤字。輸出は前年比+4.5%の7兆6,443億円、輸入は前年比+9.8%の8兆2,484億円。
- ③サービス収支は▲79億円赤字幅が拡大して▲2,204億円の赤字。
- ④第一次所得収支は証券投資収益の黒字幅拡大により、+5,390億円黒字幅が拡大して+3兆4,407億円の黒字。第二次所得収支は▲1,733億円赤字幅が拡大して▲4,190億円の赤字。

日本の経常収支の推移(億円)



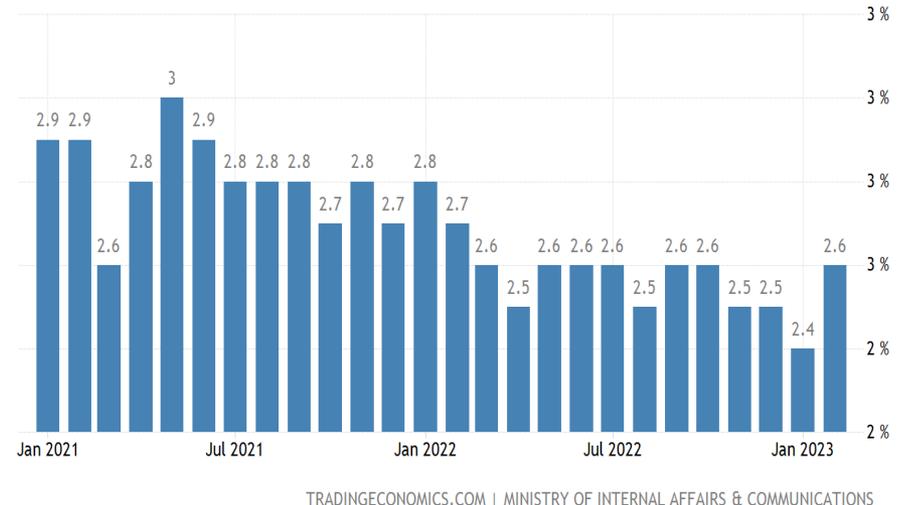
10. 日本の雇用回復は頭打ちの兆し

①2月の就業者数は原系列で6,667万人、前年比+43万人。季調済(右上図)は6,714万人で前月比▲30万人の減少。原系列で雇用者数は6,012万人で前年比+7万人の増加。正規は3,568万人で前年比▲9万人、非正規は2,102万人で前年比+29万人。自営業主・家族従業者は622万人で前年比▲3万人。

②産業別就業者の前年比では宿泊業・飲食サービス業+17万人、サービス業(他に分類されないもの)+11万人、建設業+11万人、情報通信業+10万人などが増加。卸売業・小売業▲39万人、生活関連サービス業・娯楽業▲14万人などが減少

③完全失業者数174万人で前年比▲6万人。完全失業率は2.6%で前月より+0.2ポイント上昇(右下図)。

④有効求人倍率は1.34倍で前月比▲0.1ポイント低下。



11. 鉱工業生産は前年比で弱含み基調が続く

①2月の鉱工業生産指数(確報)は94.9で、前月比(右上図)は+4.6%、前年比は▲0.5%と4ヶ月連続の低下(右下図)。

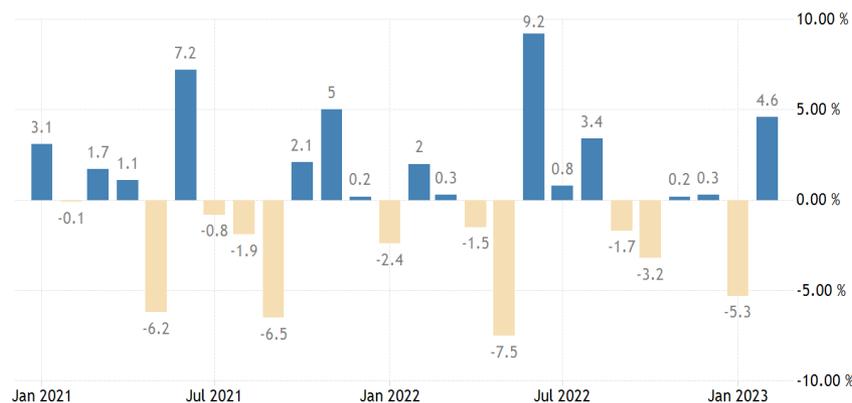
②業種別前月比では自動車工業+15.4%、生産用機械工業+8.9%、電子部品・デバイス工業+7.1%などが上昇。化学工業(除く無機・有機化学工業)▲4.1%、電気・情報通信機械工業▲2.3%が低下。

③業種別前年比で電子部品・デバイス工業▲15.4%、窯業・土石製品工業▲7.4%、無機・有機化学工業▲8.7%などが低下。輸送機械工業(除く自動車工業)+11.6%、電気・情報通信機械工業+8.1%などが上昇。

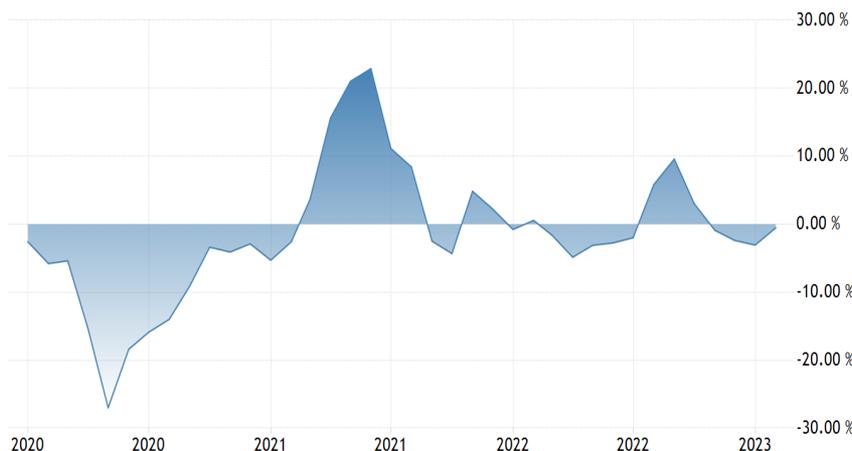
④3月の製造工業生産予測指数は前月比+2.3%、4月は+4.4%の上昇を予想。

⑤設備投資の先行指標である資本財(輸送機械を除く)出荷は前月比+2.7%、前年比+3.7%。

⑥基調判断は「生産は弱含み」に据え置き。



TRADINGECONOMICS.COM | MINISTRY OF ECONOMY TRADE & INDUSTRY (METI)



TRADINGECONOMICS.COM | MINISTRY OF ECONOMY TRADE & INDUSTRY (METI)

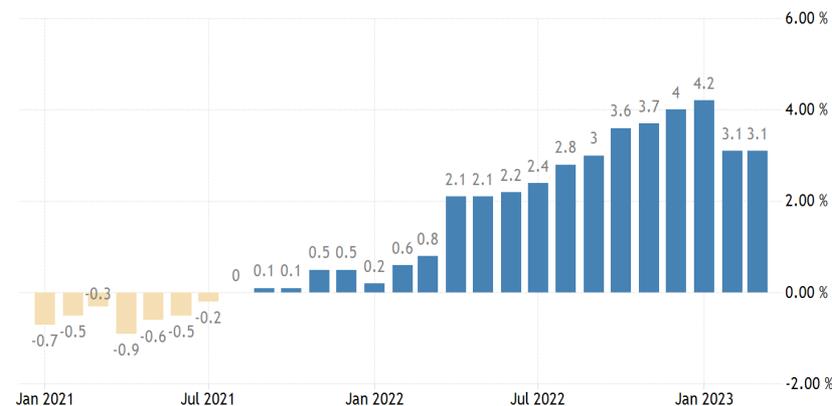
12. 消費者物価上昇は食料、非エネルギーが主導

①3月のコア消費者物価(生鮮食品を除く総合)の前年比(右上図)は+3.1%と前月と変わらず。前月比は+0.3%。

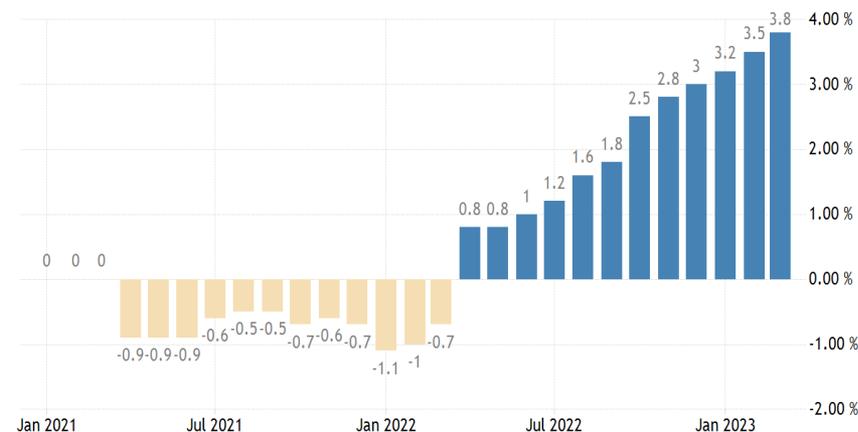
②生鮮食品及びエネルギーを除く総合(コアコア)の前年比(右下図)は+3.8%で前月より+0.3ポイント伸びが高まる。前月比は+0.5%と加速。

③消費者物価総合の前年比は+3.2%と前月より▲0.1ポイント伸びが低下。前月比は+0.3%。エネルギーの前年比は政府の電気、ガス代の負担軽減策で押し下げられて▲3.8%、寄与度は▲0.32%と前月との寄与度差は▲0.26%。食料の前年比は+7.8%で寄与度は+2.07%。

④項目別前年比で上昇は火災・地震保険料+12.2%、食用油+24.3%、鶏卵+29.4%、都市ガス代+10.0%、携帯電話機+21.1%。電気代▲8.5%。



TRADINGECONOMICS.COM | STATISTICS BUREAU OF JAPAN



TRADINGECONOMICS.COM | STATISTICS BUREAU OF JAPAN



V マーケット動向

1. 日銀金融緩和維持予想で円がやや弱い



2. ユーロは金融不安が遠のきやや戻す



3. 人民元は方向感が見えず横ばいの動き



4. NYダウは金融不安が去ったことで戻す



5. 日経平均は欧米株価の回復で上昇



6. 独株価 (DAX) は金融不安解消で回復上昇



7. 上海株価は海外株価につれてやや上昇



8. 米長期金利は3.5%近辺で横ばいの動き



9. 日本の長期金利は政策不透明で神経質な動き



10. 独長期金利は金融不安遠のきやや上昇



11. 中国の長期金利は低下傾向



12. 原油価格 (WTI) は70~80ドルのレンジ相場



13. 金価格は金融不安で上昇した後は一服





完